

(明治二十五年七月六日 遷信省認可)

# 監獄學雜誌

## 第四卷第貳號

### 目 録

- 論說 (一丁) 探美(學人)
- 監獄鼓吹 (六丁)
- 監獄內參觀許可ノ件ニ就キ (浪一橋 學生)
- 監獄瑣談 (浪一橋 學生)
- 李峽ト犯罪トノ關係(承前)
- 海外通信 (一五丁) 浪一橋 學生
- 近世ニ於ケル獨逸監獄制度ノ沿革(承前) (一七丁) 浪一橋 學生
- 問答 (一七丁) 浪一橋 學生
- 囚人處罰ニ關スル疑議ニ答フ (山口縣監獄署 一日生)
- 教誨 (二〇丁) 浪一橋 學生
- 關至教誨ニ就テ (北海道樽戶月形 原胤昭)
- 翻譯 (二二丁) 浪一橋 學生
- 分房監獄ハ如何ナル標準ニ依リ建築スヘキヤ(クローネ承前) (二二丁) 浪一橋 學生
- 獨逸モアヒツト監獄典獄クローネ稿 山上義雄譯 (二三丁) 浪一橋 學生
- 統計 (二六丁) 浪一橋 學生
- 明治廿六年一月々末在監人現在表 (二六丁) 浪一橋 學生
- 通信 (二九丁) 浪一橋 學生
- 拾件 (二九丁) 浪一橋 學生
- 雜報 (二九丁) 浪一橋 學生
- 特別寄書 (三四丁) 浪一橋 學生
- 監獄改良トハ何ノ謂ヒ乎 (三四丁) 浪一橋 學生
- 奇書 (三九丁) 浪一橋 學生
- 科程外作業工錢ノ範圍ニ付テ (在北海道函館 工藤襄福)
- 在監人遺體下付手續ニ就テ (靜岡 法)
- 刑事被告人ノ帶モ三尺ニ限ル乎 (在大阪 夢居道土)
- 刑罰計算ニ就テ(日生ノ實績ニ答フ) (在埼玉縣 夢居道土)
- 在監人營養物攝取明細表ニ就テ(承前) (在埼玉縣 夢居道土)
- 囚人ノ處罰ハ典獄ニ於テスルヲ要ス (如佐堂 夢居道土)
- 看守採用規則ノ發布ヲモル (如佐堂 夢居道土)
- 一事ヲ再理シタルハ其結果如何 (如佐堂 夢居道土)
- 請讀餘話 (小河滋次郎君解述)

發行人 東京市四谷區荒木町廿七番地 磯村 兌 貞  
 印刷人 同 市 同 區 同 町 同 番 地 近藤 貞 一 郎

## 警 察 監 獄 學 會 發 兌

○本誌定價並廣告料

- 監獄學雜誌 壹部定價 前金六錢 (全國無遞送料)
- 全 署內五名以上購讀ノ向ハ 壹部 前金五錢五厘(全 上)
- 一府縣內數百名協議購讀ノ向ハ前項ノ外特ニ割引法ヲ設ク
- 又一署內十名以上ノ雜誌代金ヲ取纏メ之レヲ送付シ及讀者ノ増減、轉免等ヲ報告スルノ勞ヲ取ラセラル、諸君ニハ雜誌ノ代金ハ申受ケサルモノトス
- 廣告料 一行一回分 金十錢

○雜則

- 監獄學雜誌ヲ本會ニ向ケ直接注文セラル、キハ住所姓名(官衙ニ奉職セラル、)ヲ詳記シ雜誌ノ號數ヲ指定シ一冊若クハ數冊分ノ前金ヲ添ヘラルヘシ
- 雜誌ノ前金相切レ候節ハ送本ヲ停止ス但官署上等司獄官及本會々費取纏主任ノ資格ヲ以申込ノ向等本會ニ於テ信スル所ノ諸君ニハ特ニ廢讀ノ通知ニ接スル迄ハ引續キ送本シ代金申受ク可シ
- 右ノ如ク前金相切レ候諸君ニ對シ雜誌ヲ送付スルトキハ其帶封ヘ(督)印ヲ押捺シ御送金ヲ促シ亦前金拂込ノ向ヘハ清印ヲ押捺スルヲ例トス
- 本會ニ向ケ直接雜誌代金ヲ送付セラル、キハ爲換ノ宛名ハ本會會計部トシ東京四谷郵便支局ニ向ケ拂込アルヘシ
- 通運便ニ付セラル、キハ其持込貨ヲ添ヘ郵券ヲ以テ代用セラル、キハ五厘切手一割増タルヘシ
- 本誌代金領收證、請求書其他本會ノ回報ヲ要セラル、向ハ返信用郵券又ハ葉書ヲ送付セラルヘシ
- 本誌賣捌望ノ向ハ其旨申込アルヘシ

發行所

警察監獄學會

### 警察監獄學會出版物廣告

司法次官清浦奎吾君序文 內務省備獄務顧問故フラン、ゼー、バツハ君序文  
 東京集治監典獄石澤謹吾君序文 內務書記官文學士久米金彌君序文  
 宮城集治監典獄八木秀太郎君跋 小河滋次郎君編著

### 第五 日本監獄法講義

完 洋裝美本金字八紙數四百五十二頁定價金一圓五十錢非常減價金六十錢  
 五錢全國無遞送料但四ヶ月々賦拂込ヲ諾ス本支署長又ハ各課及書記  
 看守長諸君ヨリ申込ノ外ハ前金ヲ要ス

本書ハ本邦監獄中、施行細則及看守以下監獄吏員分掌例ニ據リ逐條泰西監獄學ノ新説及各國ノ監獄法規等ヲ比照參酌シテ條文ノ意義、立法者ノ精神ヲ注疏剖解シタル新著書ナリ著者ハ久シク職ヲ內務省警保局ニ奉シ多年、治獄ノ實務ニ當リ尙曩ニ監獄官練習所ノ譯官トシテ常ニ內務省ノ獄務顧問タル獨逸監獄學士ニ親炙シ益々斯道ノ研修ニ淬勵セラル故ニ具述作スル所ハ獨リ理論ニ涉ラス亦々實際ニ迂闊ナラス、或ハ歐米諸大家ノ所見ヲ考證シテ論根據ヲ固メ或ハ本邦內務省ノ指令通牒若クハ當局者ノ意見等ヲ參酌シテ實例及立法ノ精神ノアル所ヲ開明シ、苟クモ本邦治獄ニ關ル要項ハ細大、網羅シテ亦々餘蘊ナシ、故ニ各地方獄務講習所等ニ於テ參考書教科書トシテ最モ適當ナルハ勿論治獄改良ノ今日、直接ニ斯道ニ關係ヲ有セラル、諸士又ハ世ノ識者タルモノ、須ラク一讀スヘキノ良著書ナリト信ス若シ夫レ議論ノ該博痛快ナル、行文ノ流暢明晰ナル、叙次体裁ノ完整秀美ナルカ如キハ一讀ノ上讀者ノ判定セラル、所ニ任カス

前警保局長小松原英太郎君演述

### 再 監獄費國庫支辨論

完 (定價金八錢)  
 (全國無遞送料)

司法次官清浦奎吾君序文 宇川盛三郎君序文 小河滋次郎君反譯

### 再 獨逸監獄管理法

完 (定價金四十五錢)

静岡縣知事小松原英太郎君序文  
 内務省參事官兼法制局參事官文學士都筑馨六君序文  
 内務省書記官文學士久米金彌君序文  
 内務省警保局監獄課長小河滋次郎君著  
 看守 獄務提要 完  
 必携

○豫約法

○製本  
 〔本文 上等日本洋紙  
 表紙 クロース金字入〕

○定價  
 一部金五十錢

○一府縣内看守押丁  
 一部金二十四錢

○諸君全員購讀  
 本會支辨

○運送費  
 上記ノ割引ハ官署、典獄、書記看守長本會會費  
 取經主任ノ諸君ヨリ一纏メ申込ミノ分ニ限ルヘシ

○送金

全員購讀ノ向ハ着本其月ヨリ向四  
 ケ月(一)ケ月金六錢ノ割拂込ヲ諾  
 ス。送金ノ節ハ郵便又ハ銀行爲換  
 トシテ本部宛送付セラレタシ。通  
 運便ヲ以テ送金セラル、其持込  
 賃ヲ加ヘラレタシ。宮城縣管内豫  
 約員ニ限リ仙臺市大町書林木村文  
 助ヘ向ケ送金セラレタシ  
 申込ノ順序ヲ以テ郵便、瀛車、瀛船  
 便ノ内冊數及土地ノ便否ヲ圖リ極  
 マテ速達ヲ期スヘシ

○發送

靜岡縣知事小松原英太郎君題字  
 宮城縣治監典獄八木秀太郎君序文  
 宮城縣典獄山崎德義君序文  
 宮城縣治監教諭師藤吉智教君著

監内揭示條目辯解

全

(定價金十五錢  
 部數ニ依割引法アリ)

監獄學雜誌第四卷第貳號

論說

●監獄鼓吹

第一 緒言

探美學人

余客臘歸郷セシ時郷黨朋友會スル者數十京地ノ感話ヲ需メラル即チ應シテ監獄ノ一般ヲ談ス事奇ニアラス  
論新ナラズト雖一座皆異感ノ狀ナクンハアラス其監獄ノ本質及罪惡ト社會ノ關係ヨリ監獄ノ勿諸ニ附スヘ  
カラサルヲ説キ一座漸ク其意ヲ得タルモノ、如シ

想ヲニ監獄ノ社會ト離隔スル大概將ニ斯如キノ類ニシテ監獄ナル感念……コノ感念ヲシテ實ニ當局者ノ專  
占タラシムルノ現況ナルハ豈ニ痛惜ノ至ナラスヤ

夫レ如斯社會ハ監獄ノ一般ニ向テ極メテ冷淡タルハ社會進歩ノ度茲ニ達セサルノ致ス所ナルヘシト雖而  
モ先達ノ士誘掖ノ足ラサルモノ亦重モナル原由タラスンハアラサルナリ果シテ然ラハ斯道熱心ノ輩タル監  
獄事業ノ改良進歩ヲ圖ルノ外ニ宜シク監獄ノ條理ト監獄ノ狀勢及ヒ監獄ト社會トノ關係ヲ縷述シ社會ニ對  
シ斯道ノ鼓吹ヲ爲スモノ換言スレバ社會ニ監獄ノ智識ヲ與フルコト蓋シ吾人ノ最大要務ナラスヤ即チ本篇  
ヲ草スルノ所以ナリトス

第二 刑罰ノ原理

夫レ監獄ハ刑罰執行ノ事業ナルヲ以テ刑罰ノ原理ヲ研究スルハ最必要ノ點ナリトス依テ本篇ノ前置トシテ聊カ汎論スル所アラントス

第一刑罰權 社會ノ秩序ヲ維持シ人民ノ保護ヲ計ラント欲セハ各人ノ自由ニ放任スヘカラス國家ハ必スヤ各人ノ意志行爲ヲ制肘スル所ナクンハアラス其規則即之ヲ法律ト曰ヒコノ法律ニ背反スルノ所爲即犯罪ナリトス而シテ刑罰ハ法律違反ノ者ニ施ス所ノ惡報ニシテ之ヲ名ツケテ制裁ト稱ス故ニ法律制定ノ權ハ是レ刑罰權ノ存在スル所ナリ蓋シ國家ハ一般人民ニ對シ之カ保護發達ノ義務アルヲ以テ犯人ニ對シテハ刑罰ヲ執行スルノ權利ヲ有ス即良民ヲ保護スルノ義務ハ不良民ヲ芟除スルノ權利ナリ故ニ刑罰權トハ國家ノ目的ヲ達スルノ妨害ヲ除去スル國家ノ一大權力ナリト云テハシ

第二刑罰ノ目的及性質 刑罰ノ目的ヲ論スルモノ一ニシテ足ラスト雖要スルニ社會ノ安寧ヲ維持シ人民ノ幸福ヲ圖ラシカ爲犯者ヲ懲戒シ同一ノ犯罪ヲハ復ヒ社會ニ現出セシメサラントスルニ在リ而シテ刑罰ナルモノ、性質ハ犯罪ノ意志ニ反對シテナス所ノ強制ナリ然レトモ犯人ノ心中ニアル意志ハ直チニ之ヲ強制スルコトヲ得サルモノナリ故ニ刑罰ナルモノハ只意志ノ外形ニ表ハレタルモノニ向テ強制スルニ過キス此強制ノ手段ヲ稱シテ刑罰トハ稱スナリ

又刑罰ニハ正理ニ合フト、感覺ニ觸ル、苦痛ナルト、各人平等ナルト、罪惡ノ大小ニ從ヒ輕重アルト、分割シ得ヘキモノナルト、犯者ノ一身止マルト、執行ヲ中止シ得ヘキモノナルト、ノ條件ヲ具備スルヲ以テ良刑ノ性質ナリトスレドモ未タ之ヲ充タスノ刑罰アラザルナリ

第三刑罰ノ主義 國家刑罰ノ主義ニ關シテハ古來學者間異論者出テ殆ント歸スル所ヲ知ラス然レヒ之ヲ總括ノ三者トナスヲ得ヘシ(一)ハ國家カ刑罰ヲ實行スル所以ハ國家ノ職務上其範圍内ノ一分子ナリ刑罰ニハ刑罰自体ノ目的アリ敢テ一個人社會ノ利益ヲ計畫スルノ目的ニアラズト即絕對的正義論者ノ主張スル所ナリ(二)ハ國家カ犯罪者ニ對シ刑罰ヲ以テ處分スル所以ノモノハ其刑罰自身ハ犯罪ニ對スル目的ニアラズ國家ノ目的ヲ達セント欲スル方法手段ニ過ギザルナリ故ニ刑罰ノ目的トナス所其他ニ在テ存スルモノナリト是レ相對的社會便益論者ノ主張スル所ナリ(三)ハ折衷主義ニシテ國家ニ國家ノ正義アリ又利益アルヲ認ム然レヒ人間ハ社會ノ爲メニ生存スルモノニアラズ人間ノ爲メニ社會アリ又國家ヲ組織スルモノナリトノ理由ニ依リ國家ハ正義ノ範圍内ニ於テ社會ノ便益ヲ計畫スベシトノ說ヲ主張ス是レ一般學者ノ採用スル所ナリ

如斯雜多ノ議論アリト雖要スルニ刑罰ノ主義トスル所ハ現在ノ安寧ト將來改進トヲ計ルヲ以テ目的トスルモノナリ

第四刑罰ノ種類 刑罰ヲ施スヘキ物体五種アリ生命、身体、財産、自由、名譽、是ナリ故ニ刑罰ノ種類ハ左ノ如ク區別セラル

(一)死刑 死刑トハ犯人ノ生命ヲ奪フノ刑ニシテ學理上ヨリ其性質ヲ考案スレハ良刑タルノ要素ヲ備ヘサルハ學者ノ議論一定スル所ナリ唯之ヲ存廢スルニ就テ歸着スル所ヲ見スト雖ヒ余ヲ以テ之ヲ觀レハ存

死刑論者ハ政略上ヨリ立論シ廢死刑論者ハ單純ナル學理上ヨリ立論シ各其論據ヲ異ニスルニ由ルモノナラン然レトモ當今文明諸邦中已ニ身体刑ノ不可ナルヲ發見シテ之ヲ全廢シタルヨリ推究セハ存死刑論ノ非理ナル多言ヲ須非スシテ明カナリ從テ刑典上其跡ヲ絶ツノ期當ニ近キニアルヘキナリ

(二) 身体刑 身体刑トハ直接ニ人ノ身体ニ苦痛ヲ與フルノ刑ニシテ古昔何レノ國ニモ行ハレタル所ナリ人々未タ自由名譽財産ノ重ンズベキヲ知ラサル時ニ當リテハ刑罰ヲ施シテ效果ヲ得ヘキ物体ハ止タ身体ト生命トノミ故ニ當時刑罰ノ身体生命ニ限レルハ固ヨリ當サニ然ルヘキ所ナリ然リト雖今日已ニ他ニ刑罰ヲ施スヘキ適當ナル物体ヲ發見シタルヲ以テ又此種ノ物体ニ刑罰ヲ施スノ必要ナク遂ニ全ク之レヲ廢スルニ至レリ

(三) 自由刑 自由刑トハ身体ニ苦痛ヲ與フルノ目的ニアラスシテ犯人ノ動作ノ自由ヲ停止スルノ刑ナリ此刑ハ諸種ノ刑罰中最モ良刑ノ性質ヲ具備シタルモノトス故ニ當今文明諸國ノ刑典中自由刑最モ許多ナリ

自由刑ハ即監獄ニ於テ執行スル所ノ刑罰ナリ其ノ種類及詳細ハ後ニ之ヲ論述セン

上來生命身体両刑ノ如キハ最嚴刑酷罰ニシテ全ク古代ノ遺物ナリ蓋シ人智未開ノ世ニ在リテハ刑罰ノ執行ハ敢テ國家カ一般人民ニ對スル義務ヲ犯法者ニ對スル權利トシテ實行シタルモノニ非ズ唯嚴刑酷罰以テ下民ヲ制馭スル政略上ノ器具ト爲シタルニ過ギズ故ニ刑ハ炮烙磔殺車裂アリ罰ハ三族九族ニ及フ然レモ此時代ニ於テ果ノ能ク犯罪者ノ跡ヲ絶ツニ至リシヤト云ハ決ノ然ラス一旦罪ヲ犯シタル者

ハ假ヒ過ヲ悔ヒ善ニ遷ルモ其慘刑ヲ免カレザルヲ以テ所謂毒ヲ食ハハ皿迄トノ諺ノ如ク小惡ヨリ大惡ニ入ルモノ陸續跡ヲ接シ却テ反對ノ結果ヲ得タルハ古今各國ノ歴史ニ徴シテ炳然タリ

夫レ嚴刑酷罰ノ犯罪ノ數ヲ減少スルノ効ナキ之ノ如シ是ヲ以テ自由刑ハ刑罰中ノ適正ナルモノトシテ且事實上其大部ヲ占ムルモノナルニ依リ自由刑ハ刑罰ノ總テヲ包含スルト謂フモ誣言ニアラサルベキカ

(四) 名譽刑 名譽刑ニ二種アリ曰ク犯人ニ耻辱ヲ與フルモノ曰ク犯人ノ權利ヲ剝奪スルモノ是ナリ古昔ハ大概第一種ヲ採リシガ近時ニ至リテハ專ラ第二種ノ方法ニ依レリ此二種ハ共ニ名譽刑ナリト雖其理由ニ至リテハ霄壤ノ差アリ則第一ハ犯人ニ耻辱ヲ與ヘ其罪惡ノ賠償ヲ爲サシメントスルニ在リ第二ハ犯人ニ或ル權利ヲ有セシムルハ社會ニ危險ナリトシ之ヲ剝奪スルニアレバナリ

我刑法ニ於テハ名譽刑ハ唯附加刑トシテ之ヲ科スルニ過キササルヲ以テ主刑ニハ名譽刑ヲ認ムルコトナシ即剝奪公權停止公權及治産禁是ナリ

(五) 財産刑 財産刑トハ犯人ノ所有スル財産權ノ一部ヲ剝奪スルモノナリ而シテ之ヲ剝奪スルヤ或ハ犯人ニ其物件ヲ所有セシムルハ社會ニ危險ナルガ爲メナルモノアリ或ハ犯者ニ苦痛ヲ與ルノ目的ニ出ルモノアリ古昔ノ財産刑ハ宥ニ犯人ノ所有ヲ沒收スルニ止マラズシテ一家ノ財産ヲ擧ゲテ沒收シタルコトアリト雖ヒ近世刑ハ一人ニ止マルノ原則確定セシヨリ遂ニ其跡ヲ絶ツニ至レリ然レモ我刑法中犯人ノ所有ニ非ザル財産ヲ沒收スルアルハ學者ノ非難ヲ免カレザル所ナリ

刑罰ノ原理ヲ論ズルニ就テハ猶敘述スベキモノアリト雖本篇ニ重要ナル關係アラザルヲ以テ之ヲ畧ス

(未完)

### 雜錄

#### ●監獄内參觀許否の件に就き

監獄内一覽許否の件に付ては我か獄務當局者に向て大に注意を請はざるべからざることあり泰西の格言に曰く凡ろ各國其國の文野及び其國文明の程度如何を知らんと欲せば先づ其監獄を視よと宜かる哉言や犯罪ハ社會の反響なり監獄ハ國法執行の頭腦あり故を以て其監獄を一覽せば國法の如何に嚴正に執行せられつゝあるや又其犯罪の種類を吟味せば社會進度の如何あるやを推知すること敢て難事にあらざるべし依是觀之は我か獄務當局者の責任に於ける重且大あること今更事新しく予輩の説明を要せざるべし然り而して監獄内觀覽許否の權に付ては高等監督官たる内務大臣を始め直接管理者ある府縣知事及監獄署長たる典獄の職權内に屬すること勿論あり故に是れが職權を有する是等の當局者は宜しく右等監獄内の

一覽を請ふものあるときは其許否する以前に當て嚴密に左記の事項を審糺せざるべからず  
一監獄の參觀を請ふものは其官吏たるひと私人たることを問はず巡覽に依て職務上に實益を與ふるものあることを要す假令は帝國及府縣會議員、法律家獄事に關する會社及協會員(出獄人保護會社、監獄協會員等の如き)宗教家、醫師の如きは職務上に實益を與ふる種類に屬するものとす  
一右の外獄事に直接の關係を有せざる一私人に在つては最も嚴密に其參觀を請ふの旨趣を審糺せざるべからざらざれば格別の理由も亦なく只一時の好奇心の爲めに監獄を一覽せんことを欲するが如きものなきにあらざればあり新聞雜誌記者の如き所謂此類に屬するものあり  
右二項の事實を能く審糺し之れか許否を爲さるべからざらざれば猥りに皮想の觀察を爲すか爲め往々訛誤謬傳進んては虛妄架空の事實を文飾捏造して社會公衆の迷誤を來たし徒らに治獄の旨趣を攪擾す

るに至ることあるべければあり而して是れが許可を與ふるものあつても私に在監人と交談する等のことを許すべからざること勿論あり又女監の如きは殊更に注意を要すること肝要かり前號に擧ぐる所の米國雜誌記者ロング氏ノ監獄巡視の結果の如きは其大體に於て頌贊せりと云へロング氏の口より奇好を競ふ云々と云ひ將た四人の撮影と云ひ二つながら前掲二項の條件を満たさざるものと云ふべく殊に囚人の身体撮影の如きは其筋に於ても許容せられざるの旨趣たること別項に併記弁正する所に依て明かあり聊か記して當局者の注意を請ふこと爾り  
右は唯予輩一己の意見にあらざ予輩か最も敬愛する獄務顧問故セーバツハ先生既に此説を陳べられたり因みに付言す

#### ●監獄瑣談

一日所用ありて某法學士を訪ふ氏は殊に刑法の學に精しければ話次偶々監獄の事に及び之が爲め圖らず三時間有餘を費せり此間の言俚々予輩を教へて餘ます所なく實に後進を啓發したるもの多しとす、今其記憶に存する要領を筆記して茲に同好諸

士に示す、多年斯事業に従事せらるゝの精練の諸士に取ては或は冗言あるやも知れざれど兎に角局外者の見、法學者の説として一顧するの價値あるべしと信す

#### 一橋學生

刑法の發達と監獄との關係 何れの國を問はず刑法の發達と社會の進歩とは常に相一致するものなり我國に於ても亦彼の歐洲諸國に於けるが如く生命刑は最も早く發達し推古天皇の御代迄は刑法と名くる如き成文の法律はあらざりしも君主若くハ社會に對し大なる害惡を及ぼすものある時ハ其都度朝廷に於て評議を凝し斬罪嶋流(此頃の嶋流は無人の境に放逐するに有れば殆ど生)の處分を施せりと云ふ其次に發達し來りたるは身体刑にして人の手を傷けたるものは已れも亦手を傷けられ、盜を爲したるものは腕を斷たれ、姦淫を爲したるものは宮刑に處せられ、夫の黥を施すが如きは近頃迄現に行はれつゝありしあり社會の文化漸く進み名譽の何たるを擣するに從ひ榮譽刑あるものハ第三として顯れぬ然れども此の刑罰は現に名譽ある少數の人にのみ局限せられ且つ又自暴自棄の心を養成せしむる媒

たるの恐あるに依り今日に於ては何れの國の刑法も皆附加刑として之を實行するに過ぎず、社會の旋轉せる走馬燈、歩一步進んで貨幣を擧起し財産の責ぶべき所以を知得するに及んで財産刑なるもの起る、刑罰は成るべく平等ならざる可らざるの原則に依り此刑罰も文明の論者に容れられざる唯或る種類の犯罪に科するのみとあれり自由刑は實に最後に發達したる刑にして今日に於ては社會進歩のしんがりとも云ふべきあり

監獄あるものは素と自由刑を執行する所なるが故に其の創始も亦之と時を同ふせざる可らざる尤も古昔に在て人を客中に幽し城塞に監禁し罪人を奴隸とあして苦役を科せしむる等のことは間々ありたれどもこは政事上の争、若くは戦争に於ける俘虜となりたるものにして所謂今日の自由を束縛するの目的を異にするものなれば必しも同一と見做す能はざ然れども元と起因する所は主として戦争の俘虜となりたるものより漸く發達變化し來りたるが如し

**社會の秩序を保持するの權** 國家は國家自身の存在として苟くも之に對し害惡を加ふる者ある時は

フコ稍ヤ僅少ナリ即チ自殺數ノ増加ヲ來タスハ三分ノ一ノ多キニ昇ルモ夏期ニ於ケル犯罪數ノ増加ヲ見ルニ監獄事務員記録ノ表ニ從ヘバ十二分ノ一ヨリ多カラザルナリ換言スレバ英國ニ在テ夏期ニ於ケル犯罪數ノ百分中六乃至八ハ充分其原因ヲ直接溫度ノ作用ニ歸スルヲ得ベシ此說ヤ當局者審査ノ結果ニシテ兇輩ノ私見ニ非ザレバ充分信ヲ置クニ足ル可シ一千八百八十六年「レグ井スタ、ヂー、ヤツシアリン、カローラリ」ノ寄書欄内ニ於テ以太利ノ犯罪學者ヲ以テ有名ナル博士「モルロー」氏モ亦夏期ニ於テ犯罪ノ増加スルコトニ付キ余輩ト同様ノ斷論ヲナセリ即チ氏ハ夏期五、六、七及八ノ四ヶ月間ニ於テ以太利監獄内ニ獄則違犯者ノ數最モ多キヲ說ケリ之レ余輩カ既ニ英蘭ノ例ニ於テ縷述セシ所ト全ク相符合セルモノニシテ博士ユローラジャンニー氏モ其著書「ラ、ソシオールジャ、クリミナル」ニ於テ此事ニ關シ説明セシ所アリ(然レドモ未ダ盡サバ所アレバ此ニ掲ゲズ)然リ而シテ余輩ハ年内ノ各季節ニ於テ監獄則違犯者ノ數ヲ比較スルヨリモ他ニ人類行爲上ニ及ホス溫度ノ結果ヲ諷ルノ最モ適切ナル方法アルヲ見ズ何トナレバ監獄内ニ於ル犯罪者ノ比較ヲナスハ單ニ季候ノミニ

之を剷除する方法を計らざる可らざる、この國家存立の機關を分て三とす、曰く警察機關、司法機關、監獄機關、この三者は互に相關連して始めて其用を爲すものあることは今更予の辯を俟たざる所かり而して我邦に於ては維新以來大に警察司法の兩機關は發達進歩し來りたれども獨り監獄機關のみ未だ舊套を脱する能はざるものあるに似たり豈に功を一簣に缺くものと謂はざる可けんや斯の如く偏重偏輕の有様は却て機關の運動として遲緩おらしめ國家存在の目的を誤るものあり、寧ろ予輩の眼を以て見れば秩序保持の上の最終の機關即ち監獄にして能く成美の域に達したらんには他の兩機關に於て或は幾分か不備ありと雖ども之を補足するを得べしと信ぜ此事あらんを望むは一に我輩監獄關係の諸士にあり監獄の事たる固より至困至難の業務なり之をして成美濟良のものたらしむるヲヨソボラドの出でんを望むや實に切なり

(未完)

●季候ト犯罪トノ關係 (承前)

然レトモ溫度ノ勢力ハ自殺ニ及ホスヨリモ犯罪ニ及依リ犯罪ノ原因ヲ論スルヲ得ベクシテ他ノ原因ニ關シ探究ヲ盡スヲ要セサル最良方法ナルヲ以テナリ如何ナル理由ニ於テ溫度ノ昇降ハ各個人ヲシテ犯罪ニ抵抗スルノ力ヲ微弱ナラシムルヤ此ノ事柄ニ就テハ生理學者ノ注意ヲ蒙ムラザルヲ得ザル至重至難ノ問題ナリト雖モ夏日ノ高熱度ナル時候ニ在テハ人類消化器ノ作用ヲ衰弱セシムルモノナル事ハ争フ可カラザル事實ナリ故ニ人類身体ノ一般組織ヲ鈍クシ弱カラシムルモノナルコトハ生理學者ノ說ヲ待タズシテ明カナリ故ニ高熱度ヨリシテ多數ノ疾病患者ヲ發生スルト等シク犯罪ヲ増殖スルノ傾向ヲ來スモノナリ蓋シ病者若クハ虛弱者ハ健康壯快ナル人ヨリモ多ク犯罪者タリ安キニ因ル果シテ然ラハ犯罪ト疾病トノ間ニ於ケル密接ノ關係アルコトヲ忘却ス可カラズ然レレ今爰ニ兩者カ密接ノ關係ヲ有セリト論述スルモ以テ夏期ニ於ケル犯罪増加ノ由ヲ説明スルニ充分ナラス即チ一千八百八十九年ニ於ケル登記官長ノ記録ヲ繙クニ十八個ノ大都會ニ於テ死亡者ノ數ハ十二月ヨリ五月ニ至ル間ヨリモ六月ヨリ十二月ニ至ル六ヶ月ノ期間ニ於テ小數ナルヲ認ム之ヲ以テ是ヲ見レバ犯罪數ノ最モ多キ時期ニ於テ疾病數ハ却テ甚ダ僅少ナ

リト云ハザル可カラス故ニ此事實ノ表面ヨリ觀察スレバ一般ニ疾病ハ夏期ニ於テ人民ヲ驅リ以テ犯罪數ヲ増加セシムルモノナリト論ズルヲ得ズ

夫然リ然リト雖モ未タ疾病ト云フニ至ラザルモ身体ノ虛弱(溫度ノ昇加スルニ從ヒ生スル)ナルカ爲メ犯罪性質ノ感覺ヲ刺戟スルカ又ハ犯罪性質ノ感覺ヲ打破シ排除スヘキ抵抗カヲ減スルノ結果ヲ生スルモノナルコトハ疑フ可カラサルナリ而シテ溫度ノ昇加ハ管ニ身体ヲ虛弱ナラシムル而已ナラス尙又腦髓作用ノ活潑ト勢力トヲ萎靡セシムルモノナリ換言スレバ高溫度ハ精神ヲ減衰スルモノニシテ人類ハ概テ此種ノ衰耗著シク皆其生活及行爲ノ方法ニ於テ豫メ察知シ得可キ結果ヲ有スル能ハザルニ至ルモノナリ万有の勢力ニ感染シ易キ人及種々ノ理由ヲ以テ殆ント犯罪ノ堺界地ニ中立スルガ如キ人ニ於テハ溫度ノ昇騰ニ依リ精神作用ノ消耗減衰ハ實ニ明確ニシテ犯罪行爲ハ取モ直サス其結果タルナリ即チ犯罪性ヲ禁遏スルノ能力アル精神上ノ勢力ハ氣候ノ作用ニ由リ一時其力ヲ消失シ其時ニ於テ多ク犯罪中ニ陥落シ易キモノナリ以上ノ方法ニ於テ溫度ハ人類行爲ノ上ニ忌ムベク嫌フベキ活動ヲナスモノナルコトハ余輩ノ信シ

テ疑ハザル所ナリ

然レドモ余輩カ右ニ攻究セシ結果ヲ推考スレバ冬期ノ極寒ニ於テ財産ニ對スル犯罪ノ最モ夥多ナリトノ說ニ符合セサルヤノ觀アリ去レト冬期ニ於テ財産ニ對スル犯罪最モ多シトノ法則ハ佛蘭西ニ於テ尙ニ適當ナル可シ何トナレハケリー、フェリー、コレイ諸氏ノ如キ皆統計ヲ審查シテ以テ此斷論ヲ摘示スレハナリ之ニ反シ英國ニ在テハ其法則ノ果シテ適當ナルヤ否ヤ稍ヤ疑ナキヲ得ズ自一千八百八十八年至一千八百八十九年「サルレイ」州ニ於ケル犯罪數ハ其比較上一月ニ於ケルヨリモ七月ニ於テ審ニ身体ニ對スル犯罪ノミニ限ラズシテ財産ニ對スル犯罪モ亦頗ル夥多ナルヲ見ル即チ一月ヨリモ七月ニ於テハ重罪犯者百分ノ二十ヲ増加セリ故ニ若シ「サルレイ」州ノ斯ル顯象ヲ以テ英國全体ノ摸範トナスコトヲ信スルヲ得バ「サルレイ」州ヲ摸範トスヘシトノコトヲ信スルヲ得ベキ幾多ノ理由存セリ」余輩ハ云ハシ夏期ニ於テハ冬期ニ比較シ財産ニ對スル犯罪夥多ニシテ一般人ノ說クガ如ク冬期ハ一年中ノ最モ犯罪増加スル時機ナリトノ說ハ全ク誤謬ニシテ且ツ冬期ハ晝間短カク夜間長キカ故ニ財産ノ安全ヲ保シ難シト云フガ如キハ實

ニ誤信ノ極ナリト

全面ヨリ論下セハ財産ハ夏期ニ於ケルヨリモ冬期ニ於テ最モ安全ナルベキノ理ナレハ冬期ニ於テ行ハルハ財産ニ對スル犯罪ハ些々タル狗盜ノ類ニ非スシテ最モ重大ナルモノナラザルベカラズ今余輩カ此決論ヲナスニ當リ輕罪以上ノ犯期(行政官ニ依リ審理セラレスシテ裁判官及陪審官ノ審問ヲ受クル罪)ニ就キ其四月乃至九月ノ夏期六ヶ月間ニ於ケルヨリモ十月乃至三月ノ冬期六ヶ月間ニ於テ頗ル夥多ナリトノ事實ヲ援引セザル可ラズ又一千八百八十八年ニ在テハ其夏期六ヶ月間ニ於ケルヨリモ冬期六ヶ月間ニ於ケル輕罪以上ノ犯罪多キヲ其數二千ヲ下ラス則チ家屋破損盜或ハ強盜ノ如キ財産ニ對スル犯罪中ニ在リテモ最モ重大ナル犯罪ハ右輕罪以上ノ犯罪中大部分ヲ占領スル者ニシテ是等ノ犯罪ハ最モ多ク冬期ニ於テ行ハル、モノナルコトハ固ヨリ信ヲ置クニ足ル可シト雖ドモ其些細ナルモノヨリ其重大ナルモノニ至ル迄財産ニ對スル渾アノ犯罪ヲ總括シテ論セバ是等ノ犯罪ハ寧ろ夏期ニ於テ夥多ナリト云ハザル可カラザルナリ

「サルレイ」州ニ於テハ冬期ノ寒冷漸次嚴ナルニ從ヒ

續々繁殖スル犯罪ハ浮浪罪ナリ而シテ此犯罪ノ増生ハ七月ニ比シ一月ニ於テ最モ多キコト百分ノ六十二該ルル冬期ニ於テ浮浪者ヲ増加スルハ一ハ寒氣ノ嚴烈ナル候ニ在テハ勞働事業ノ容易ニ得ベカラザルニ由ルモノニシテ或部分ノ人民ハ工場ニ就カンヨリモ寧ろ晝時タモ不規則ナル戶外ノ事業即チ人ノ門戸ニ行立シ首ヲ俛レ尾ヲ搖カシテ憐ヲ乞フノ業ニ依頼センコトヲ欲スル者アルヲ以テナリ然レモ此ノ如キ社會ノ人民ハ甚タ少數ナルカ故ニ冬期ニ於テ監獄統計ヲ増加セシムル浮浪者條例違犯者中ノ僅少部分ヲ占ムルニ過キザルナリ而シテ此條例ニ背キ監獄統計上ニ最モ其數ヲ増加セシムル犯罪者ノ多數ハ稍ヤ以上ト異ナリ寒風冷氣ノ酷烈ナルヲ奇貨トシ其機會ヲ利用シテ公衆ノ憐愍ヲ得コトヲ勉ムルノ人民ニ在リ去レト夏期ニ至レバ是等ノ人民モ此狡猾手段ヲ行フコト能ハサルニ至ルベシ何トナレハ炎熱ノ候ニ在テハ彼等ノ纏フ所ノ襪及ヒ憫然タル外貌ハ以テ吾人ヲシテ憐愍ノ情ヲ惹起サシムルニ足ラス彼等ノ纏フ所ノ襪襪モ其憫然タル容貌モ殆ント盲者ノ前ニ示シ聾者ノ傍ヲニ語ルト異ルコトナシ之ヲ以テ夏期ニ於テハ乞食ヲ業トシ以テ公衆ノ憐愍ヲ得ントスルモ難シ之

ニ反シテ冬期ニ復歸セハ初雪ハ先ツ浮浪者ノ身上ニ降り來リ其難澁ニシテ且ツ困窮セル外貌ニ裝ヒ憐愍ヲ公衆ノ門戸ニ乞フヲ得ヘキナリ故ニ若シ彼等ニシテ一二時間ニテモ警察ノ監督ヲ脫離セハ數日ノ間無窮ノ娛樂ニ雀躍スルヲ得ルモノナリ實ニ彼等ハ狡猾貪婪奸智ニ長ケタルヲ狐狸ノ如ク譎詐百端顔皮ノ厚キヲ蛙ノ如シ果シテ然リトセハ世ノ慈善家ノ其財ヲ彼等浮浪ノ徒ニ施與スルモ却テ彼等ヲシテ益々其地位ニ陥落セシムルノミ看ヨ慈善家ノ施物ハ果シテ何ノ効ヲ奏スルカ彼等ハ其施物ヲ近傍麥酒店ニテ浪費スルニ非スヤ彼等ハ其飲酒ノ資盡クレハ復之ヲ得ンカ爲メ人ノ門戸ニ立テ之ヲ得レバ以テ酒ヲ購ヒ而シテ飲酒ノ極ハ醉狂トナリ乱暴トナリ終ニハ官ノ厄介物タルニ過ギザルナリ人若シ余輩ノ説述スル所ヲ疑フ者アラハ請フ警察ノ記録ニ就キ醉狂及乞食ノ如キ犯罪ノ判決數ニ着目セハ以テ余輩カ説述ノ虚ナラザルヲ知ルト全時ニ猶ホ其數ノ夥多ナルヲ見テ戰慄肌ニ粟ヲ生ズベク世ノ似而非慈善家ヲシテ其施與ノ結果却テ怖ルベキヲ悔悟セシムルニ至ル可キナリ

以上溫度ト犯罪トノ關係ニ就キ論究シ來リタル所ヨリ如何ナル實際上ノ決論ヲ演繹スルヲ得ルヤ先ヅ第

一ニ精神明晰ナル結論ハ歐洲人及其後裔ニ關スル限リハ溫度ノ昇騰ハ人類ノ責務ヲ減却スベキ傾向ヲ有ストノヲ是ナリ若シ之カ改良ノ方策ヲ盡サバ果シテ此傾向ヲ銷除削滅シ得ルヤ及其方策ハ如何是等ハ特ニ生理學者ノ考慮スヘキ事項ナリトス而シテ最モ要ナル事項ハ高溫度ガ單ニ犯法ノ罪人ノミヲ作ラスシテ尙又學校ニ於ケル小兒軍隊ニ於ケル兵卒製造所ニ於ケル勞力者及各自其關係ニ於ケル一般公衆ノ行爲上惡結果ヲ醸成スルモノナリトノヲ是ナリ勿論溫度ノ變動ニ由リ社會ノ發達ヲ妨クルノ傾向アル身體上ノ形狀ヲ試験スルハ生理學者ノ任務ナリト雖ヒ亦傾向ノ存在ヲ認識スルハ執政ノ地位ニ在ル者ノ正ニ觀察セサル可ラサル義務ナリトス而シテ其傾向ハ官ニ他物ニ存在スルヲチノミ認メズシテ自己ノ身上ニモ存在スルモノナルヲ思ハザル可ラザルナリ夫レ然リ然ルニ酷熱ナル夏期ニ於ケル裁判ハ他ノ時期ニ於ケルカ如ク賢明ニ精細ニ且鄭重ニ施行セラレザルコト何ソ夫レ多キヤ苟モ法律適用ノ任ニ在ル裁判官及行政官ニシテ酷暑ノ時期ニ當リ刑事ノ審判ヲナスニハ宜シク萬有的勢力ノ人類裁判上ニモ其結果ヲ波及セラルモノナルヲ記憶セザル可カラザルナリ夫ノ輕躁

ニシテ思慮ナキ判決一時ノ感激ニ基ク判決、又ハ後悔ノ念ヲ惹起スヘキ苛酷ナル判決ハ皆多少此万有的勢力ノ及ボシタル効果ナリ而シテ是等ノ觀念ハ單リ法律適用ノ任ニ在ル者ノミナラス其己ニ判決ヲ受ケタル囚人ヲ取扱フノ職ニ在ルノ人即チ監獄官吏ノ如キモ抱持セザル可カラザルノ義務アル者ニシテ夏期ニ於ケル囚人ノ取扱方ハ特ニ注意ヲ用非ザル可カラザルナリ

季候ノ變遷ハ凡テ人類ノ責務上ニ影響スルモノナルヲハ己ニ述ベタル所ナレハ此ノ如キ原因ハ裁判官ノ刑事被告人ヲ審理スルニ當リ考案省慮セザル可ラザルモノナルヤ將又否ラザルヤヲ決スルハ最モ困難ナリ強迫、監禁及謀殺故殺等ノ各犯罪ニ於テハ疑ヒナク是等ノ犯罪ヲ發生シ増殖スルニ至ラシメタル諸種紛雜ナル勢力ヲ決定スルノ一原因トシテ季候ヲ採用シ得可キモ茲ニ一ノ困難ナル反對説アリテ存ス即チ季候ヲ以テ判決ヲ下スノ材料トナスニ當リ裁判官カ尙ニ審理セル各被告事件中果シテ季候ノ勢力ガ罪人ノ犯ニ及ボセル狀況ノ現存セルヤ否ヤヲ發見シ得ル上甚ダ困難ナリトノ一是ナリ此困難タルヤ到底洗滌シ去ル能ハズト雖ヒ裁判官ノ審理セル被告事件ニシ

テ其當時他ニ類ヲ見サル孤獨單一ノモノナリヤ又ハ他ニ許多ノ類例アルモノナリヤニ若目シ考案セハ此困難ヲ排除シ得可シ何トナレハ若シ裁判官ノ審理セル被告事件ニシテ其當時他ニ其種ノ犯罪ナク孤獨單一ナルモノナリセハ溫度ニ就キ省慮スヘキ原因ノ存セサルヲ假想シ得ヘキモ之ニ反シ裁判官ノ審理セル被告事件ニシテ當時其種ノ犯罪多ク世ニ行ハルレバ溫度ハ以テ其被告事件ヲ判決スルノ參考タルベキモノナルヲ想定シ得可キヤ明カナリ

以上述ヘ來リタルガ如ク犯罪ヲ發生セシムベキ種々ノ原因中溫度ノミヲ以テ最モ強大ナル勢力ナリトナシタルカ故ニ之レニ隨テ生スヘキハ如何ナル説ナリヤト云フニ若シ人アリテ一ノ企圖ヲナスモ溫度ノ作用ニ依リ其強大ナル勢力ノ爲ニ之レヲ行フタリトセシカ苟モ溫度ノ勢力ニシテ其人ノ企圖又ハ行爲上ニ影響ヲ及ボセル限リハ其範圍内ニ於テハ無責任ナリトノ説是ナリ然レハ斯ク論シ來リ其人ノ行フタル犯罪ニシテ重大ナルモノナリセハ實ニ社會ニ大ナル危害ヲ與フルニ至ル可シ之ヲ以テ其人ハ犯罪者トシテ咎ムヘキ所少キモ社會ノ被ムル可キ危害ハ實ニ大ナリト云フヲ得可ク社會ノ負フヘキ自衛ノ義務ヲ斷行

セサル可カラザルナリ若シ夫レ其人ニ罪ナシ天ニ罪アリトテ其人ヲ赦免セハ啻ニ不理ノ甚シキモノナル而已ナラス其結果ハ却テ其人ノ害トナルベキナリ然レモ温度ノ作用ニ依リ増加瀾漫スル環々タル性質ノ犯罪ニ於テハ能ク其犯罪ノ性質微細ナルヲ記臆シテ妄リニ其犯罪者ニ長期ノ刑ヲ科セザラシムルハ司法省ノ正ニ勉メサル可カラサル事項ナリトス若シ夫レ入獄ノ刑ニ處スルニ當リ刑期ヲ短縮シ以テ銳利ナル方法ヲ撰フハ刑期ヲ延長シ以テ緩漫ナル處置ヲ爲スヨリモ勝レルコト數等ナルハ余輩ノ喋々ヲ要セザルナリ而シテ短縮ナル刑期銳利ナル方法ヲ施行セハ他ノ點ニ於テモ亦大ナル利益アリ夫レ犯罪者ノ入獄スルニ當リテハ其家族ヲシテ衣食住ノ困窮ヲ感セシムルハ常ニ免レザル所ナリ然ルニ長期ノ刑ヲ適用セハ其家族ノ慘憺タル窮狀更ニ云フニ忍ヒザルモノニシテ其所有ノ家屋諸道具ハ漸次ニ賣却シ去リ終ニ其妻ハ不足勝ナル衣裳ヲモ脱去シ襤褸ヲ纏フノ憫狀ヲ呈シ兒女ノ玩具ヌラ質屋ニ典シテ尙且ツ足ララス飢ニ泣キ凍ニ哭シ唯々其夫ノ放免以前ニ於テ家族ニ死者ナキヲ以テ幸運ナリト賀ス可キ而已嗟呼斯ノ如キ慘狀ハ獨リ犯罪者ノ身上ニ墮落スルニ非スシテ無事

ナル妻孥之身上ニモ波及スルハ恟ニ嘆スベキノ極ナラズヤ是ヲ以テ社會ハ此慘狀ヲ減却シ安寧ヲ保持セシムルコトヲ勉ムヘキハ人世普通ノ必要ニシテ正ニ盡ス可キノ義務ナリト云ハザル可カラズ終リニ臨ミ刑法ノ管轄以外ニ於ケル犯罪ノ事ニ關シテ一言センニ余輩ハ學校、工場、軍隊又ハ其他集會場ノ規則ニ支配セラル、人類社會ヲ觀ルニ猶ホ刑法上ノ犯罪ニ於ケルカ如ク温度ノ昇騰シタル季節ニ於テ違則者ノ數最モ多シ而シテ此事實ヲ證スル統計ノ存在スルト否トヲ論セズ苟モ悖逆行爲ノ暖暑中ニ最モ多ク行ハルハ、疑フ可カラザルノ事實ナルヲ以テ是等ノ規則ヲ執行シ以テ配下ヲ服從セシムルノ任ニ在ルノ人ニシテ此事實ヲ記憶スルニ於テハ補益スル所實ニ少々ニ非ザルナリ即チ人ヲシテ是等規則ニ服從セシムルノ困難ナル万有の勢力ノ作用カ人類行爲上ニ波及セルコトヲ願慮シ以テ違犯者ニ嚴酷奇重ナル罰ヲ加ヘザラシムルコトヲ庶幾スルハ強チ不當ニ非ザルナリ而シテ通常毫毛煩縲又ハ危險ノ虞ナク行フヲ得可キ諸種ノ事物モ時ニ或ハ度々刺戟ノ材料若クハ根源トナルコトアルハ一般ノ經驗上知ルヲ得ベクシテ或ル物理上ノ妨礙ハ此變化ノ原因トナルガ如ク之ト同様ノ妨

礙ハ高温度カ常ニ社會ノ或部分ノ間ニ在リテ間斷ナク續出シテ以テ人類行爲ノ不完全ナル基礎ヲ築クモノト云フ可シ (完)

### 海外通信

#### ●近世ニ於ル獨逸監獄制

度ノ沿革 (承前)

在伯林 信 山 生

若シ行刑法ニシテ法律ヲ以テ定メラレザル限リハ監獄制度革命ノ結果即チ制度ノ統一及原則ノ統一ハ得テ期スヘカラサルナリ何カ故ニ行刑法ハ法律ヲ以テ定メサルヘカラサルカ是レ當然ノ理ニ取テ説明ヲ要セザルヘシ各國何レノ國ト雖モ監獄監督權一途ナラサルナリ其例外タルハ獨リ普漏生國アルノミ七十年来普國ニ於テハ監獄監督權統一ニ關シ内務司法兩省ニ交渉ヲ爲シタルモ今日ニ至ル未ダ其結末ヲ見ル能ハス依然懲役監、來因監獄及其他ノ地方監獄ハ偶然ノ原因ヨリ内務省ノ所轄ニ屬シ總テノ拘置監ハ司法省ニ屬ス此ノ如キ有様ナレバ其結果ハ勢ヒ行刑ノ不同ヲ招カサルヲ得ス内務省ハ司法省監獄ニ規定ヲ

設クル能ハザルハ勿論ナレハアレツエンセーノ在監人ハ衣服、臥具、食物、役業、給與工錢等ニ於テモザールブリユケ及ハメルンノ在監人トハ大ニ異リ單純ナル法理ニスラ背馳シ議會及監獄協會決議ヲ爲シ此不統一排除ヲ希望スト雖モ依然トノ猶今日ニ存ス獨逸中普國ヲ除キ其ノ他ノ國及獨逸國ニ於テハ監獄監督權ハ一ニ司法ノ權内ニ屬ス獨逸國制上比例的短少ノ時日ヲ以テ千八百六十五年以來驚クヘキ長足ノ進歩ヲ爲シタルハ千八百五十三年中婦人慈善會ノ手ニ任シタル男囚監獄ニ於ケル刑ノ執行ヲ再ヒ司法省ノ管掌ニ移シタルニ依ルモノニシテ監獄監督權一二期スレハ必ス好結果ヲ得ルト云フノ証トナスニ足ルモノナリ而シテ該婦人慈善會ニ於テハ拘禁、食物作業、紀律等總テ管理シタリシ獨逸國及獨逸聯邦ノ多クハ監獄監督權ヲ司法省ニ委任セリ普國ノ外監獄ノ内務ニ屬スル國ハ只ザリセンアルノミニシテ司法省ハ單ニ關涉スルニ留マリシ刑ノ執行ハ司法大臣之ヲ定メ施行スルヲ正當ト爲スニモ拘ラス内務大臣モ亦之ヲ爲スヲ得ルモノトシテ毫モ怪マサル如キハ解シ難キ所ニシテ一モ理由ノ存スルナシ或ル論者ハ司法大臣ノ職權内ニ在ルモノヲ内務大臣ヲシテ施行セシムルハ

司法大臣ノ職ヲ辱カシメタル者ニシテ換言スレバ彼ハ監獄事務ヲ處理スルノ能力ナシト云フト一般ナリトス故ニ此管轄問題ニ就テハ論スルノ必要ナク各國監獄事務ハ法律ヲ以テ司法大臣ニ屬セシムルカ或ハ法理ノ原則ニ依リ司法部ノ管掌トナサザルヘカラス獨逸刑法ニ依リ司法大臣假出獄ヲ許否スル一事ニ就テモ其司法省ニ屬スヘキモノタルハ明瞭ナリトス獨逸國ノ實驗ニ依レバ假出獄ノ結果ハ良好ト謂フヘシ特別監視違反及停止ノ如キハ極テ稀ニシテ該法ノ主唱者タルミツテルマイエル、フオン、ホルツエン、ドルフ、ワールベルヒ、ベルチル諸氏ノ希望ヲ満足セシメ分房行刑法ノ補充法トシテ適當ナルモノトス司法省ニ於テ監獄ヲ監督スル各國ニ於テハ該法ノ利用範圍極テ大ナリトス普國ニ於テハ嘗テ假出獄ノ數少キニ過クトノ訴ヘアリシモ其原因ハ監獄ト司法大臣トノ間ニ充分ナル交通機關ヲ有セサルニ因ル司法大臣ハ監獄官吏ノ人物功績ヲ悉知セサレハ常ニ躊躇スルノ傾キアルハ免レサル處ニシテ同シク獨逸國中ニテモ司法部ニ監獄ノ屬スル所ニ在テハ假出獄ヲ許スモ最モ多シ埃國ノ如キハ新刑法草案中特ニ假出獄ニ關スル規定ヲ設ケタリ監獄協會ニ於テモ千八百七十一年

年ミユンヘン會議ノ際左ノ如ク決議セリ  
 各國行刑法良否ハ假出獄ノ一事ニ存ス假出獄ノ法宜シキヲ得タルトキハ行刑ノ結果ハ推シテ知ルヘキモノナリト  
 監獄ノ改良發達上監獄統計ハ最モ欠クヘカラサルモノナレハ實驗ニ基キ實用ニ便ナル統計雛形ヲ調製スルヲ急務トシ監獄協會ハ其事業ニ熱心從事シ埃國、普國サクセン、バイエルン、バーデンニ同主義ノ摸範統計ヲ造リ學術上并ニ實際上ニ大利益ヲ與ヘタリ  
 自由刑ノ目的ヲ達センカ爲メニハ益々進テ出獄人保護事業ヲ盛大ナラシメサルヘカラスト獨逸諸邦ニ於テハ帝王自カラ此事業ヲ獎勵シ著大ノ功績ヲ見ルニ至レリ而シテ保護事業ハ獨リ出獄人ノミナラス埃國ニ於テハ資産ヲ有セサル犯罪者ノ家族ハ苦痛ヲ感スルト本人ヨリモ反テ甚シク此等モ亦保護セサルヘカラズトノ旨趣ヲ以テ刑事被告人及囚人ノ家族ニ迄モ及ボシタリ  
 要スルニ近世ニ於テ監獄改良上ノ要件トシテ社會ニ議論アリタルハ左ノ諸件ナリシ  
 一分房法及假出獄ノ利用擴張  
 二行刑法ヲ法律ヲ以テ定ムル

- 三監獄ハ司法部ノ管掌ニ屬セシムヘキ
  - 四完全ナル監獄統計調製ノ件
  - 五出獄人保護獎勵ノ件
- (完)

### 問 答

#### ● 囚人處罰ニ關スル疑議ニ答フ

山口縣監獄署 I H 生

本誌第四卷第一號ニ於テ獄務研究生ナル人ノ疑問ヲ提出セラレタリ余輩譎劣敢テ答辯ノ任ニ當ラスト雖モ聊カ講究ノ料トシテ之ヲ試ミン希クハ叱正ヲ垂レヨ(以下疑問ノ項ヲ序テ、之レヲ記ス事項ハ原文ノ儘ナリ)

(一) 我監獄則第四十二條ニ所謂獄則トハ如何ナルモノヲ云フヤ

研究生ハ他ノ論者ノ言ヲ引テ曰ク囚人ハ自由刑ノ執行ヲ受クル身分ナルヲ以テ其許サレタル外ハ動ク能ハス換言セハ命令ヲ俟タサレハ一手ヲモ舉クルヲ能ハサルナリト余ハ此說ニ賛成スルモノナリ然ルニ生ハ之レニ反對ノ意ヲ表シテ曰ク囚人ハ或

ル自由ヲ束縛セラル、ノミニシテ拘禁セラル、モ敢テ手足ヲ縛セラレス又雜居房ニ在テハ對話スルヲモ禁セラレス云々ト此モ亦余ノ首肯スル所ニテ兩者ノ說共ニ一理アリ然ルニ生ノ此意ヲ推シテ論者ニ反對スルモノハ何ソヤ惟フニ生ハ論者ノ言ヲ甚タ狹義ニ解シタルナラン詳言セハ論者ノ所謂命令ヲ俟タサレハ一手ヲモ舉クル能ハスト云ヒシハ全ク木偶ニ比シタル者ナリトノ誤解ニ由ルナラン併シナカラ一考セヨ如何ニ自由ヲ束縛セラレタリトテ元ト木偶ニアラサル以上ハ假令ヒ命令ヲ俟タサレハ一舉手一投足ヲモ爲シ能ハサルモノトスルニモセヨ大牀監獄ノ紀律ヲ壞ラサル又監獄ノ寧穩ヲ妨ケサル範圍内ニ於テハ決シテ其動作ヲ制限ス可キモノニ非サルヲハ業ニ己ニ明瞭ナルニ非スヤ要スルニ論者ノ言ハ教令外ノ言行ヲ制限シタル者ト見テ大差ナカラン故ニ生ノ言ヘル意味ハ自然論者ノ語中ニ包含セル者ト信スルナリ是ニ於テ之ヲ見レハ兩者ノ說ハ共ニ極端ニ失シタルヨリ其文句ヲ異ニスルモ其意ノ基ク所ハ甚シキ軒輊アルナシ以上ハ本項ニ餘リ關係深カラサルモ既ニ生カ緒言トシテ述ヘタルモノナルヲ以テ序ニ一言ス

生カ疑點トスル骨子ハ監獄則第四十二條ニ所謂獄則トハ如何ナルモノカト言フニアリ而シテ生自ラ之レカ見解ヲ下シテ曰ク監獄則施行細則第三條ニ規定スル監房揭示條目ヲ始メ監獄ノ規則及命令ニ違背シタルモノヲ以テ獄則ヲ犯シタル者トスト然レ其規則命令トハ果シテ如何ナル事項ヲ指スカ今監獄則及施行細則ヲ通覽スルニ在監人ニ向テ直接ニ命令シ若クハ禁止セル者ハ彼ノ監房揭示條目アルノミニノ他ニ一モ條項アル無シ念フニ在監人ニ對シテ罰スヘキ所爲ハ唯此揭示條目ニ違背セルノミヲ以テ足レリトスルカ何人ト雖モ輒ク認諾セザル可シ何トナレハ此條目ハ平素ノ心得方ノ主タルモノトミヲ揭テシ者ナルニ拘ラス人ノ行爲ハ實ニ難駁千態ナレハナリ然ラハ其他ノ所爲ニノ當然罰セサル可ラサルモノアルモ法ニ明文ナキ所爲ハ奈何トモスル能ハサル可シ是ニ於テ生ハ凡ソ處罰ノ主旨ハ規則命令ヲ遵守セシメント欲スルニアルモ其罰目ヲ豫告セズシテ罰スルハ不當ナリト言ヘリ是一理アルニ似タリ然レハ熟ラ考フルニ監獄ニ於ケル處罰法ハ彼ノ刑法ノ社會ノ安寧ヲ維持スルノ必要ヨリノ犯人ヲ懲罰シ併セテ世人ヲ警戒スルモ

ノトハ異リ單ニ犯則者一個ヲ懲戒スル者ニ其効果ノ及フ所モ唯監獄内ノ規律安寧ヲ保維スルニ止マリ言ハハ行政上適宜ノ處分ナルヲ以テ強ク仰々シク明文ヲ掲クルヲ要セス且刑法ハ犯人ニ多少ノ惡意アルモ其所爲ノ社會ニ大害ナキ者ハ往々不問ニ附スル場合ナキニ非サルモ獄則ノ制裁ハ少シク其趣ヲ異ニシ監獄ハ主トシテ犯人ノ心意ヲ矯正スルニアルヲ以テ嚴格ニ紀律ヲ保タントセハ犯則ハ如何ナル微犯ト雖モ苟モ故意ニ出テタル不徳義ノ言行ハ充分之レヲ探究シテ盡ク處罰スルノ方針ヲ執ラサルヲ得ス然ルニ斯ル微罪ハ到底枚擧ニ違アサル可シ而モ尙一々之カ明文ヲ要スルトセハ實ニ無數ノ所爲ヲ蒐メルノ繁ニ堪ヘサル可シ然レハ若シ強イテ之レヲ要セハ便宜典獄ニ於テ應用ノ罰目ヲ設クルモ可ナレハ結局其煩勞ニ酬ユルタケノ効績ハアラサル可シ況ヤ一般ノ處罰法トシテ規定スルニ於テオヤ以上約言スルニ獄則ヲ犯ストハ揭示條目ハ勿論假令ヒ明文ナキモ苟モ徳義ニ反シ監獄ノ紀律ヲ害スル所爲ハ盡ク之ヲ罰スルモノト爲シ其處分ノ程度ハ總テ司獄官ノ適宜ニ一任シテ可ナリト斷言スルニ憚カラサルナリ

全体刑法ニハ不告不理ナル原則アレハ監獄法ニハ絶ヘテ此等ノ原理ナシ依テ一々罰目ヲ告示スルノ要ナキモ然レハ違令犯行若クハ不徳義ノ所爲ハ之レヲ罰スルノ制裁アリト云フコトタケハ必ス豫告スルヲ要ス之レヲシモ告知セスシテ突然之レヲ罰セシカ是レ全然教ヘスシテ懲スモノト云ハサルヲ得ス且初犯ノ者ニ在テハ監獄ハ唯自由ヲ拘束セラルハノミニシテ處刑中ノ違犯ハ重テ懲罰ヲ受クルモノニ非サル可シトノ安斷ヲ爲サヤモ計リ難シ果シテ然ラハ決シテ之レヲ正當ノ處置ト云フヲ得ス依テ余ハ茲ニ一般ノ處罰法ヲ規定スル代リニ施行細則第三條第一項ヲ援引シ「在監中ハ勤勉靜肅整秩清潔ヲ旨トシ能ク官吏ノ命令ヲ遵奉シ獄則ヲ謹守ス可シ若シ違フキハ嚴重ナル懲罰ニ處セラル可シ」ト云ヘルカ如キ意味ノ心得方ヲ豫メ告示シ以テ彼等ノ素行ノ注意ヲ促シ置クヲ要ス此心得方ノ中ニハ際限ナキ所爲ヲ盡ク包括スルモノナルヲ以テ彼ノ一々罰目ヲ掲クルモノトセハ時ニ制法者ノ過誤ニヨリ明文ヲ漏ストナキヲ保シ難キモ而モ却テ罰目外ノ所爲ハ明條ナキニヨリ罪トシテ論スルヲ得ストスル如キ不都合ハ生セサル可シ（此等ノ

論旨ニ就テハ刑法ト監獄法トノ性質原則ヲ混淆スル勿レ）左レハ此豫告ハ充分罰目ニ代ユルノ價値アルモノト信スルナリ

(二) 囚人ト雖ハ法律規則ヲ以テ禁止セラレス若クハ暗ニ許サレタルモノハ之ヲ行フノ權ナキ乎

凡ソ人ハ天賦固有ノ權利アリ苟モ正當ノ理由アルニ非ズヨリハ決シテ之レカ制限ヲ受ク可キモノニ非ス故ニ彼ノ剝奪命令禁停等ノ制裁アル部分ハ勿論之レヲ行フヲ得サルモ其ヨリ以外ノ事ハ尙固有ナル自由權ノ存留スルモノトシテ自由ニ行フヲ得ルモノト云ハサルヲ得ス此理ヲ推スキハ生カ例セル治産ノ禁ナキモノ、財産上ノ契約若クハ默許ニ付セラレタル監内ノ低語ノ如キハ共ニ當然之レヲ爲シ得ヘキ權アルナリ然ルニ論者アリ曰ク財産上ノ契約ノ如キハ必ス當事者間ニ權利義務ノ生スルモノナルヲ以テ假令ヒ囚人ト雖モ治産ヲ禁セラレサル以上バーノ私權トシテ自由ニ之レヲ行フヲ得ヘキモ監内ノ低語ノ如キハ決シテ權利モ義務ヲ生スルコトナク唯一ノ默許ニ付セラレタルニ過キス其結果トシテ縱シ自由ニ之レヲ爲シ得ルトモ之レヲ稱シテ直ニ權利ト云フヲ得スト是レ僻見タルヲ

免レス何トナレハ已ニ自由アレハ必ス權利ノ之レニ伴フモノニシテ自由ハ權利ノ結果ニ外ナラス語ヲ換ヘハ自由ニ事ヲ處スルハ權利ノ實行ナレハナリ加之ナラス自由ノ束縛ハ彼ノ死刑ニ於ケル絶對的ノ剝奪トハ事違ヒ制限外ニハ尙幾分ノ自由ヲ存スルヲ以テ其範圍内タケハ即チ天賦權利ノ殘餘ト云フヲ得ヘシ

(三)若シ囚人ハ絶對的ニ自由ヲ剝奪セラレタルモノニアラスシテ制限セラレタル自由ニテ幾分ノ權利アリトセハ監獄官吏ハ其權利ノ行使ヲ止ムルコトヲ得サル歟

前項述ヘタル如ク制限外ノ自由ハ幾分ノ權利ノ存スルモノナルヲ以テ其行爲ハ擅ニ禁遏スルヲ得サルナリ然レモ其行爲ニシテ假令ヒ制限外ナルモ自由刑執行ノ本旨ニ悖ルカ若クハ監獄ノ紀律ヲ害スルニ於テハ尙之レカ制裁ヲ加フルヲ得ヘシ何トナレハ自由刑ノ目的ヲ達スルニ就テノ必要アル故ナリ譬ヘハ財産上ノ契約ノ如キハ敢テ差支ナキモ監内ノ交談ノ如キハ時ニ或ハ猥褻ニ涉リ或ハ罪惡傳播ノ恐ナキヲ保シ難シスル場合ニハ用捨ナク直ニ其交話ヲ停止セサル可カラス此等ノ自由ハ生ノ言

自由を感せざりしなりは我が集治監は出入頻繁ある地方獄と趣を異にする處も有之候へども總て吾等教誨師の職務上に取りて獄則違犯者所罰の義は密切の關係あるものあれば吾等は其處罰執行の前既に某囚は何々の事項を違犯し取調に係りたりとの事を主任者より承るともあれ共夫れに先き達ら臨房の節又は個人教誨を求め來り候節囚人より其轉末を告げ平素の教誨に悖りし罪を謝し且つ教へを乞ふ者あり殊に重き罰室の所罰を施す場合の如きは典獄の諮問もあり旁以て犯則者に對する教誨は所罰執行の日に先立つて已に業に行ひつゝあるにより所罰當日に至り始めて數言を要するが如き場合はなく教誨は寧ろ其以前に効用を致し其非を悔悟せしむるにより一段厳正なる所罰に懲戒せらるゝものゝ如し尙所罰當日に臨房するものは先に與へたる教訓を想起省念せしむるための勸誘をあすものありこゝには斯くの如き實況をあし居れり固より淺薄なる生等の自ら造り成せる習慣果して當るや否やを知らざり只教誨師と囚人と關係は公愛上恰も慈母が赤子に於ける情交あれば朝に覺れば先づ監獄の無事囚人一同變る事なしと聞かねば心安からざりには今日も無事別に發病犯則者

ヘル如ク恩恵上ヨリ與ヘタルモノニ非スシテ人間固有ノ權利上ニ屬スルヲ以テ故ナク之レヲ制止スルハ適法ニ非サルナリ  
右第二項第三項ハ問題ノ區域ヲ超ヘタル事項ナルモ姑ク疑議ノ儘ニ從テ之レカ辯解ヲ試ミシナリ請フ諒セヨ

### 教誨

#### ●閤室教誨ニ就テ

北海道樺戸月形 原 胤 昭

寸楮敬呈過日は御懇書難有拜見如貴諭小生も長らく劍路に教誨致し居候故同分監の囚人には何となく切ある憐情ありしに今や此の可愛の人々ど起居を隔て候は恰も「ホーム」を離れて旅にあるの思ひに御座候又轉勤後は新しく此の地の囚人を知らねばならず事務に寸暇無之御無沙汰にのみ相成申候今日は監獄雜誌第四卷第一號到着不相變之好文字歎て一讀致候閤室教誨に係る痴山生の御論說至極御尤に存候併し斯く論し來れば此上閤室教誨は如何なる方法に依て施すべきやとの問起れり生等は從來之れに就き餘り不

等もあかりしと聞かねば寢安からざるは此職にある者の誰れ彼もあき同感なるべしされば一人の重病者あるか或は一人の犯則者あれば人も聞かせ走には置かせ我も聞かせにはあらず斯くして見れば閤室教誨の爲めに透問を求むる必要も起き走良し室外教誨を施すに彼れ閤室の内に入りて姿勢を亂して教誨を輕侮するが如き事あらんとは思ひにだに起さるなり其教誨は簡單たる勸誘とは云へ吾人が至誠は必き彼れの胸を刺すものと信じ申候不相替愚説おれども呈書の序申白し敢て明教を仰き候不盡

三月三日 樺戸月形 原 胤 昭  
岳洋先生 梧下

### 翻譯

#### ●分房監獄ハ如何ナル標準ニ依リ建築スヘキヤ(クローチ承前)

六 分房翼 山上義雄

分房翼ハ建築地ノ許ス限リハ(何レノ場合ト雖モ不良ノ建築地ニ建築スヘカラス)地下層ヨリ四階ニ至

ル迄観察ニ便ナル方法ヲ用ヒ建築セサルヘカラス地  
下層ハ獨棟房ニ充用シ若シ中央建物ノ地階ニ於テ中  
央煖房機ヲ裝置スルノ場所ナキ時ハ分房翼地下層ヲ  
中央煖房機室ニ使用スルヲ得ヘシ地下層ノ底面ハ  
地盤上面ヨリ低キ一五十瓏知米突ヲ超ユヘカラス此  
クノ如ク地下層ヲ分房ニ利用スル時ハ三棟ノ分房翼  
四階共使用セラル、ニヨリ第四分房翼ヲ節略スル  
ヲ得ルナリ分房翼ノ長サハ廊下ノ各側ニ十八乃至二  
十二房ヲ設クルニ足ラサルヘカラス故ニ一翼一階ノ  
房數ハ三十六乃至四十四房トナル此内一ヲ看守室ト  
シ尚一房ヲ手洗室ニ充ツルヲ以テ實際囚人ヲ拘禁ス  
ル監房數ハ三十四乃至四十二房ニシテ三翼ノ監房數  
ハ合計四百八乃至五百四房トナル若シ中央煖房機ヲ  
翼内ニ設置セントスル時ハ各地下層ニ於テ各側二房  
ヲ之ニ要スレハ全体ニ於テ十二監房ヲ減スルナリ  
廊下ノ幅員ハ四米突五十瓏知トス  
廊下及地下層ノ監房並ニ中央建物ノ床ハ下層ヲコン  
クリート及煉化敷石トシ上層ヲアスハルトトス其他  
ノ監房ニ於テアスハルト、セメント、板ノ内節儉  
ノ主意ニ適當ナルモノヲ選ブベシ  
監房ノ積ハ晝夜分房ニ在テハ少クトモ二十二立方米

突即チ面積七、三十米突高サ三米突トス監房ノ積ハ  
幅ヲ二、二米突、長サヲ三、八米突、天井迄ノ高サ  
ヲ三米突即チ約二十五立方米突トナスヲ最モ適當ナ  
リトス然レヒ官署ノ都合即チ作業上ノ便否ニ依リ三  
十立方米突(十米突平方)迄ノ監房ヲ設クルモ妨ケナ  
シ晝間工場ニ出テ作業ニ從事スル囚人ノ監房ハ二十  
二立方米突トナスノ必要ナク十三乃至十五立方米突  
ヲ以テ充分ナリトス其ノ配置宜シキヲ得ントスルニ  
ハ各翼ニ於テ地下層平地層一階ノ各側ニ在ル初メノ  
二房ノ幅ヲ二、二乃至二、八米突トシ其上ニ丁ル二  
階監房ニハ十二、五瓏知米突ノ間仕切壁ヲ設ケ二房  
ノ寢監房ヲ設ク此クノ如クスルキハ各翼ニ於テ約三  
十立方米突ノ大監房十二及約十四立方米突ノ寢監房  
八房(合計廿四寢監房及三十六大監房)ヲ得ルナリ  
若シ大監房ノ數多キニ過キ寢監房ニ不足ヲ告クルノ  
恐アルキハ大監房ハ地下層及平地層ノミニ設ケ一階  
二階ノミニ寢監房ヲ設ク然ルキハ各翼大監房八、寢  
監房十六(三翼合計廿四大監房及四十八寢監房)ヲ有  
ス寢監房ハ工場ニ於テ就役スル囚人ノ用ニ供スルモ  
ノニシテ實際上全囚ノ五分ニ過キサレハ前記ノ數ヲ  
以テ不足ヲ感スルコトナシ或ハ分房監獄ニ短期ノ囚人

ヲ拘禁シスツトガルト決議ニ依リ十六立方米突ノ監  
房ヲ要スルカ若クハ尙多數ノ寢監房ヲ必要ト思惟ス  
ル場合ニ於テハ事務翼及中央建物ノ間ニ一棟ヲ建築  
シ其地下層及平地層ヲ物置及新入監房ニ充テ中央建  
物ヨリ通見シ得ル家層ニ必要トスル小監房ヲ設クヘ  
シ此ク配置スルキハ無益ノ場所ヲ採リ建築費ヲ浪費  
スルノ恐ナカルヘシ  
監房ノ窓ハ少クトモ一平方米突ノ大サヲ有シ床ヨリ  
二米突ノ高サニ設ケ鐵格子ヲ付セサルヘカラス格子  
ノ縱鐵ハ圓柱形ニシテ直徑二十一密里米突トス而シ

之ヲ幅六十密里米突厚サ十二密里米突ノ扁鐵ニ各一  
三五密里米突ノ距離ニ於テ固着セシム窓ハ之ヲ二分  
ニ分チ上部ハ内方ニ九十度ノ角度ヲ以テ垂折スルノ  
構造ナルヲ要ス而シ窓ノ開キタル部分ハ〇、五平方  
米突ナラサルヘカラス開閉ノ方法ハ可成簡便ニ設ケ  
監房内ヨリ引棒ヲ以テ容易ニ開閉シ得ルノ構造タラ  
サルヘカラス若シ窓ヲ木製ト爲スノ場合ニ於テハ出  
來得ル限り格子ヲ密ニスヘシ窓硝子ハ普通品質ニテ  
妨ケナシ  
(未完)

統計

明治廿六年一月々末在監人現在表

廳府縣名	囚人	刑事被告人	懲治人	別房留置人	携帶乳兒	計
警視	三、四六二	八八二	一三三	三三七	一〇	四、七一四
東京小笠原嶋	一	一	一	一	一	一
集治監	二、三三五	一	一	一	一	二、三三五
北空知分監	二、五四七	一	一	一	一	二、五四七
統計						二二三





本縣看守教習所第三期受業生五人ニ昨十六日卒業証書ヲ授與シタリ其人左ノ如シ

看守 中村範四郎 全 滿田完三郎  
 全 山本諦三 全 下村和 市  
 全 増田兼三郎

●監獄分課其他

北海道龜田監獄支署工藤襄報告

北海道廳ニ於テハ監獄處務細則ヲ更正シ監獄分課ヲ庶務守警作業經理ノ四課及教務醫務ノ二所ヲ置キ又支署ニ於テハ龜田根室ノ兩支署ニ限リ庶務守警作業經理ノ四係教務醫務ノ二所ヲ置ケリ

任免

經理係長ヲ命ス 監獄書記 伊 東 保 之  
 教務所長ヲ命ス 教 誨 師 西 川 諦 亮  
 醫務所長ヲ命ス 監 獄 醫 丸 山 浦 次 郎  
 看守教習所龜田支所長兼幹事 下 平 列  
 兼幹事ヲ免ス 監獄書記 菅 野 博 吉  
 看守教習所龜田支署幹事ヲ命ス 和歌山縣監獄署

●看守教習卒業

和歌山縣監獄署

雜 報

●監獄協會常集會ノ景況

全 金 丸 源 治  
 全 加 田 宗 造  
 全 渡 邊 辰 次 郎

監獄協會ニテハ本月第二日曜ヲ以テ上野公園韻松亭ニ第二回ノ常集會ヲ開キタリ會員在東京集治監監獄石澤源吾、埼玉縣典獄山室元吉、栃木縣典獄用斐秀成、神奈川縣典獄小泉保直、監獄課長小河滋次郎其他監獄課員并書記看守長監獄醫教誨師有志者等ニシテ四十名ノ多キニ達セリ午後一時議事ヲ始メ調査事項ノ委員長トシテ小河滋次郎氏ハ先ツ別房ノ留置人處遇ノ問題ニ付意見ヲ報告セリ其要領左ノ如シ

(一) 別房留置人ノ工場ト囚人ノ工場ハ別ニ設ケシムヘキヤ別房留置人ノ處遇ニ付テハ實際上區々ニ涉リ或ハ監獄ニ於テ度外視セサルヤノ感ナキ能ハス全体別房留置ノ事ニ付テハ毫モ監獄則ニ規定スルコトヲ總テ舊監獄則ニ準據スヘキ筈ナリ而シテ之ヲ舊則ニ徵スルニ工場ヲ別異スヘキノ明規ナシ

當署ニ於テ第二回看守教習生左之四名ニ本年二月廿七日卒業證書ヲ授與セリ

看守 坂田喜三郎  
 全 山本信太郎  
 全 増田楠藏  
 全 川口雄磨

●會議

廣嶋縣監獄署

本縣監獄支署長ヲ召集シ本月二十日ヨリ會議ヲ開キ全廿二日結了シタリ

●看守精勤證書授與

奈良縣監獄署

本月三日左記ノ看守ニ精勤證書ヲ授與セリ

監獄署誌

看守 對 月 慈 敬  
 全 田中廣太郎  
 全 早 川 勇  
 全 佐々木祐良  
 全 細田富次郎

五條監獄署支署誌

看守 山崎勇次郎

且別房留置人ハ附加刑ヲ負フ所ノ者ニシテ謂ハ、准囚人タルモノナリ然ルニ之ヲ囚人ノ工場ト別異スルニ於テハ充分ナル處遇ヲ得サルハ勿論別房ノ者ハ重モニ旅費ナキ等ノ爲留置セラル、モノナルヲ以テ力メテ彼等ニ工錢ヲ付與スル策ヲ探ルヘキニ單ニ別房ノ留置ト變名シタルニ依リ工場ヲ別異スルトセハ昨日迄ハ多クノ工錢ヲ得タルモノ今日ハ適當ノ工作ヲ爲スコトヲ得ス從テ空シク監視期滿ヲ別房ニ待ツノ狀アルニ至ルハ決シテ處遇ノ方法ニアラサルナリ況ンヤ理論上別異ノ必要ナキニ於テオヤ

(二) 別房留置人ハ外役ニ就カシムルヲ得ヘシ然レトモ人員并ニ聯伴ノコトハ共ニ規定ナキヲ以テ斯カル成限ニ拘束セラル、モノニアラサルヘシ本問題ハ事實困難ナル事柄ナルヲ以テ實際上ヨリ或ハ經濟上ヨリ其他隨意談ニ時ヲ移シ論議問答頗ル多ク決定ハ來會ニ讓リ散會シタリ本會ハ誠ニ家族風ニ組成セラレ會員相互ニ隔意ナク意見ヲ吐露スルヲ以テ其利益尠少ニアラス喜フヘキノ至リナリ

●旅費給與方

監獄官吏カ警察官ニシテ囚人護送押送ノ際誤テ迂路

ヲ通行シタルキノ旅費支給方ニ就テ或地方ヨリ其筋  
 へ問合アリシカ迂回ノ里數ハ給與ノ限ニアラサル旨  
 回答アリタル由

●恩典出獄者ニ就テ

恩典出獄者ニシテ出獄後間モナク犯罪ヲナシ復タヒ  
 同一ア監舎ニ拘束セラル、如キハ素ヨリ稀有ノコト  
 ナルヘシト雖万一如斯場合アリトセハ申請シタル司  
 獄官ノ不面目ハ勿論治獄上容易ナラサル弊風ヲ生ス  
 へキヲ以テ恩典出獄ノ申請ハ慎重ノ上ニモ慎重ヲ加  
 へザルヘカラス然ルニ近者

●假出獄ノ稟請

ヲ爲スニ當リ刑期ノ極メテ短少ナルモノ及賞表ノ寡  
 小ナルモノアリ皆相當ノ理由アルヘシト雖刑期ノ極  
 メテ短少ナル者ハ行狀ヲ勘査スルニ難ク又賞表ハ各  
 勘査期ノ終リニ附與スヘキ筈ナルニ賞表寡少ノ者ニ  
 對シテ假出獄ヲ上申スルハ後改ノ高度ヲ示サ、ル者  
 ニ向テ恩典ヲ施スノ恐レアリ殊ニ或ル犯罪例セハ詐  
 偽取財文書偽造等ノ如キ一種ノ者ニ稟請ノ多キハ囚  
 人ノ多キニ依ルヘキモ大ニ考察ヲ要スヘキ點ナリト  
 某當局者ハ語レリ

●行狀ノ調査

セラレ去ル二十七日出發セラレタリ歸京ハ多分三月  
 下旬ナラント云

●看讀ノ書籍ニ就テ

在監人看讀書籍ノ事ハ監獄則ニ明定アルニモ拘ハラ  
 ス實際地方ニ依リ種々ノ取扱アルニ就テハ彼是其均  
 一ヲ期シタリトテ或當局者ノ意見ヲ聞クニ監獄署ニ  
 於テハ監獄則及附屬ノ法令ハ數多ク之ヲ備置其他刑  
 法刑事訴訟法等現行ノ法律規則モ可成之レヲ蒐集シ  
 適宜在監人ニ看讀ニ便ヲ得セシメ且囚人懲治人ノ看  
 讀書籍ハ經文トカ文章トカ地方ニ依リ或ル一方ニ傾  
 キ居ルヤノ有様ナレトモ是等ハ能ク個人的ノ觀察ヲ  
 遂ケ書籍ノ看讀ヲシテ一時ノ流行タラシムルカ如キ  
 ニトナク眞ニ本人ノ必要ヲ認メテ許可スル様注意ヲ  
 ナシ大凡普通教育ノ程度ヲ標準トシテ取扱ヒ又懲罰  
 中ノ者ニハ無論看讀ヲ許サ、ルコトトシタシ云々

●天然痘ノ豫防

傳染病ハ其波及ノ害毒劇甚ナルヲ以テ最モ恐ルヘキ  
 モノナルカ監獄ニ在テハ一層留意セサルヘカラス現  
 ニ岡山縣ニテハ一月以來監獄署拘留監ニテ一名津山  
 監獄支署ニテ十名ノ天然痘患者ヲ發生シタルニ依リ  
 直ニ避病院ヲ開設シ夫々療養中ノ由ナルカ目下各地

前項ノ如ク恩典出獄者ヲ事前ニ精察スルハ申スニ及  
 ハス其出獄後ト雖可成本人ノ狀況ヲ視察シ場合ニ依  
 テハ訓諭獎勵等適當ノ方法ヲ設ケテ行狀ヲ調査スル  
 トキハ一ハ氣緩ルミテ再ヒ惡道ニ近ツク者ノ豫防ト  
 ナリ二ハ司獄官ノ温情ニ心服シテ益堅固ノ心ヲ強メ  
 從テ假出獄ヲ停止セラル、カ如キ者ナキニ至ランカ  
 現ニ或ル府縣ニ於テハ之ヲ實行シテ成績顯著ナル由  
 當路諸君一層ノ注意アランコトヲ望ム

●携帶乳兒ノ埋葬費

携帶乳兒ノ死亡シタルキ遺骸ノ假埋葬ハ總テ在監人  
 ニ準シ規定ノ埋葬費ヨリ適宜支辨スヘキ筈ナリト聞  
 ク

●幼年囚并ニ懲治人ノ減食

十六年未滿ノ囚人及懲治人ニ行フ減食處罰ハ單ニ食  
 料ノ減少ニ止マリ他囚ノ如ク某ヲ附與セサルノ明文  
 ナキニ依リ實際上懲罰ノ効力薄微ナルヲ以テ他ノ減  
 食同糧菜ヲ與ヘサルコトヲ望ム輩チキニアラスト雖  
 特ニ禁止ノ規定ナキ以上ハ到底定菜ヲ附與セサルヲ  
 得サルモノナリト聞ク

●監獄課長ノ巡回

小河監獄課長ハ兵庫京都滋賀愛知ノ諸縣ニ巡回ヲ命

●懲治期ノ起算方

區裁判所ニ於テ管轄邊ノ言渡ヲ爲シ檢事上訴シ管轄  
 内ナリトノ決定ニ依リ其區裁判所ニテ懲治ノ言渡ヲ  
 ナシタルトキ懲治期限ノ起算ハ管轄邊判決ノ日ナル  
 ヤ又ハ懲治場入言渡ノ日ナルヤトノ問合ニ對シ其筋  
 ニテハ懲治場入言渡ノ日ヨリ起算スヘシト回答セラ  
 レタル由

●書記計算ハ看守ノ本務ニ非ス

分掌例ノ所定ニヨリ看守ハ専ラ戒護ノ事務ニ從事ス  
 へキ筈ナレハ書記計算等ノ分課ヲ爲スハ極メテ失當  
 ノ次第ナリ然ルニ稀レニハ看守ヲシテコノ事務ニ從  
 事セシメ甚シキハ通常ノ洋服ヲ穿カタシムル向アリ  
 ト云フ記者ハ之ヲ信セサレトモ暫ラク記シテ參考ニ  
 供ス

●遺體ノ火葬

囚徒傳染病ニ罹リ死亡シ急速ノ場合親屬故舊へ遺骸  
 引受方問合セノ暇ナキ時ハ一旦火葬ヲナシ假埋葬シ  
 可然ヤトノ伺ニ對シ伺ノ通リト指令セラレタリト聞  
 ク

### ●東京感化院教務の實況

同院は明治十八年十月の創立にて其際佛蘭西國「メットライ」感化院の制度に模倣して教務及取締の方法など設たれど爾來、八年の實驗を重ね追々改良を加へ且つ感化法に於ては同院自ら大に發明する處ありて廿二年以後純然たる親愛主義の家族法を組立て入院生は悉く院長の子弟とし、教職役員之か義兄の資格にて一家族の關係を以て開發調劑大に改良の實効を奏せり、同院長の言ふ處にては感化上の最も困難あるは彼が性質、嗜好、習慣等の調査、及び心意の如何、人相觀察に在り之をしも誤認するなくば十中の七八、改良せざるなしと、故に感化法の施行はもとより一定なる事能はず、入院者の如何によりて十人十種の方便あるものありと云へり、今同院内の模様を略記し併せて方法中世間に無き處のものを左に記すべし

#### ○克化殿

同院内、庶務、出納の事務室、應接室等は世間普通の体裁にして記すべき程のものにあらざり、感化教の根本中堂とも云ふべきものを克化殿と云ふ、所謂修身教場あり、正面に翠簾を掲げ一面に白の几張を掛け其上に土方宮内大臣が「克化殿」と書したる金装の額へ薄縁を敷き其上へ食机を置き六七人宛相對して食す、掃除等各室にて之をきし極めて清潔なり、分房の獨居者は各々火鉢燈火等あり机、手函など皆之を所有し、父兄の肖像或は山水などの額を掛たるもあり掛物をかけ香かど燃くものもあるあり

#### ○主教部

主教部は感化教の本部にて院長常に當所に在りて教職を會し賞罰のこと取締向の事教授上の方法等何事も此所にて議定す家族を一人つゝ呼出して院長之に種々の談話をなし或は教誨を加ふる事あり或は密に將來の方向を指示する事あり他の役人をして少しも知らしめず院長と家族と親密に談話する事あり

#### ○教授所

教授所は、普通學科及び漢學、文學等を授くる處にして、普通科の教員二人、漢學科一人、文學科一人、之を教授す朝の八時より初りて午後三時に畢る教授の方法等世間に異なる事なし、家族將來の方法に必要ある時は定期の教授の外、英學、數學等を別に授く

#### ○觀察所

家族館の中央に觀察の役員一人詰合ふ、分房の中央に見張所ありて同じく觀察一人あり、晝夜とも互に

を掲ぐ是は同院への御抄汰書に「克く不良の少年を感化する趣被 聞食」云々の勅宣あるを以て斯く名けしものと云、此几張を左右に開けば之を内陣と云正面に唐戸あり左右に開けば内にまた翠簾を掛け白地の帳を垂るこれ感化教の祖神、大直毗神を齋き祭る所の神殿なり(直毗神は古事記にくはし)此の内陣の左と裝束の間と云内陣の前は十八疊敷の間四方に折廻して入側をつけ悉く疊敷あり之を中堂を云昇等式、入院式、賞罰の宣言、毎月の例祭及び毎週二回の教誨は必此席にて行ふ、家族(生徒と呼すして家族と云)此席へ出るに必袴を着し、役員式場に臨には必黒の式袍を着する事なり

#### ○家族館

家族館は同院生徒の寄宿舎なり、雜居の家族を三分し之をまた各々二室つゝに分ち總て六室、外に分房十室あり、家族室は一室五六人、分房は一人または二人づゝを入れ其中に長子と名け年長者一人ありて室内の事を周旋す何れの室にも夜具戸棚外に押入あり掛物、花生、かどを掛け、一人毎に机、硯箱、手箱あり、書物函を置くもあり一室毎に大火鉢を置き燈火は一室に一つまた二箇を置く食事の節は室内巡視して家族の舉止に注意し、細大となく手帳に記して、之を主教部へ出す、此の所に視察員四人、一晝夜二人つゝにて交替す、深夜と雖も一人宛必ず不寐番を勤め、火の元非常の事を警む

#### ○攻業所

家族中依頼主の望によりまたは本院にて給養する者をして活版の業を習はしむ、目今印板の彫刻、足袋職等に従事する者あり、また油畫を修業する者もあり

#### ○家族の等級

新たに入院する者あれば院長直に之に面會して教誨する處あり一周間の、ち入院の式を行ふこの式は必ず夜中執行す院長教部、二人各々黒の式袍を着し視察一人各室の長子制服にて列座院長告文を奏し、入院者誓文を読み、教部の酌にて神酒を賜はり、此とき初て十二等生となる是より追々昇級して十等生とあれば小遣錢を與へらる其より等の進むに隨つて小遣錢を増し七等生に至れば小遣錢三十錢羽織を着用する事を得るあり七等以上を待遇生と呼び普通生よりは待遇を加ふかくて一等生に至れば小遣は増て六十錢となり初めて改良生の資格を以て退院するとを得

(未完)

**●刺繡**  
 舊幕時代には犯罪の危険ある徒に向て暗に刺繡(文身)を勸誘し以て捜査の便利を得たるか如き形跡あり一巧妙手段と謂ふべきなり固より心理的の考察より言へば人情の忍ひざる完膚に傷け又容易からざる肉体上の苦痛を肩とせざる惡慣習をつくるとおれば餘り好ましからぬ談なれども近來時々人違ふとの噂を聞けば刺繡の禁ある地方にては寧ろ解禁しては如何と某好事家は言へり

**●典獄の官等**

新定官等俸給令には警部長は四等に陞り得るも典獄は集治監典獄にても五等を極とせり従前に比すれば彼此轉倒の觀あり監獄改良の今日遺憾の次第なり

**特別寄書**

**●監獄改良トハ何ノ謂カ**

蘇南寒生

監獄改良セザルヘカラストハ方今何人モ時ニ唱道スル所ニシテ談ノ或ハ條約改正ニ及フトキハ輒チ監獄改良スヘシト云ヒ其他議論ノ或ハ財政ニ或ハ道德ニ

或ハ人倫ニ或ハ刑法ニ或ハ經濟ニ涉ルコトアルハ動モスレハ監獄改良ノ語喧然予輩ノ耳底ヲ穿チ來ルコトアリ就中監獄當局者ニ至テハ既ニ二十有餘年ノ久キ口ニ監獄改良ヲ絶叫シテ舌ノ糜爛スルヲ忘ルカ如キノ觀アリ實ニ感服ノ至ト謂フヘシ然ルニ眼ヲ轉シテ其實際ヲ熟察スルニキハ頗ル遺憾ニ堪ヘサルモノアリ予輩竊ニ惟ク議論ト實際ト相平行セサルコト是ノ如キ所以ノモノハ恐クハ監獄改良ノ眞面目ヲ理解セスシテ轉々岐路ニノミ彷徨スルニ坐セザルナキヲ得ンヤト

我政府ニ於テハ夙ニ監獄則ヲ制定シ官吏ヲ歐米先進國ニ差遣シ摸範監獄ヲ建設シ屢々巡閱官ヲ特派シ練習所ヲ設置スル等銳意規畫セラル、所一ニシテ足ラス其事タル何レモ監獄改良ヲ催進スルニ有効ナル手段タラサルハナシ而シテ今日ノ實況比較的ニ事業ノ進歩ヲ見サルハ抑モ何等ノ緣由アリテ然ルカ予輩若シ忌憚スル所ナクシテ自由ニ肝膽ヲ吐露シ得ヘクンハ敢テ將ニ言ハントス曰ク一以テ之ヲ貫クノ系統的方針確乎ナラサリシカ爲メナリト  
 夫レ監獄則制定ノ必要ナルハ固ヨリ言フ須タス但幾回ノ改正アリテ前後規定ノ相異スルカ如キ跡アルヲ

如何セン官吏ヲ歐米ニ差遣シテ其長ヲ採ル其率ヤ詢ニ善シ惟其人忽ニシテ監獄ノ局面ヲ去リ齋歸ノ新知識モ格別ノ用ヲ爲サ、リシヲ如何セン摸範監獄ノ建設若シ後來之カ利用ヲ怠ラサリシナランニハ必然顯著ナル效益アリシナランニ惜ヒ哉其以降幾多ノ新監獄ヲ營造スルニ際シ實地ニ一顧ノ勞ヲタモ取ラサリシ計畫家多キヲ如何セン其外巡閱ノ効驗アルハ原來些ノ疑モアラサル所ナルニ其ノ人常ニ同キニアテザレバ見ルトコロ將タ説クトコロ個々多少ノ別異アルヲ免カレス從テ監獄ノ當局者ヲ驅テ五里霧中ニ埋却スルノ歎アルヲ如何セン獨リ監獄官練習所ノ設置ハ事實ニ於テ非常ノ效益アルヲ見タリト雖未タ其功ヲ全フスルニ至ラズシテ突如廢滅ニ歸シタルヲ如何セン

蓋シ確乎不拔ノ方向ヲ追ヒ整然タル順序ヲ履テ途ヲ行クモノハ速シ否ラサレハ左顧右眴又一進一退途ニ路傍ニ彷徨シテ已マンノミ予輩ハ前途ノ目的ヲ一定シ且之ニ達スヘキ捷徑ヲ索メ一旦針路ノ昭々タルニ至レハ一意專念斷々乎トシテ不撓不屈ノ精神ヲ勵マシ大小幾多人障礙ニ遭遇スルコトアルモ坦々タル平地ヲ行クカ如ク不變不動ノ信念ヲ保持シテ直前勇往

スヘシ我監獄改良ノ如キ一大困難事業ヲ前途ニ扣ヘ何ノ暇アリテカ如今趨越逡巡スルヲ得ン況ヤ既ニ先進者アリテ吾人ニ針路ヲ明示スル水先案内ニ乏シカラサルニ於テヲヤ少クトモ先進國ノ現狀ニ至ルマテハ別ニ焦思苦慮スルヲ要セスシテ優々直行シテ可ナリ今ハ既ニ實行ノ時代ナリ還タ試驗の且遊戯的ノ小策略ヲ是事トスヘキニアラサルナリ

然ルニ世間往々監獄改良ノ真相ヲ知ラス謬見百出甚キハ監獄改良ヲ以テ富翁ノ好事トナスカ如キ者アリ予輩不平ヲ鳴ラサ、ラント欲スルモ得ヘカラザルナリ吁漫ニ監獄改良ヲ説ク其害ヤ恐クハ測ルヘカラザル者アラント予輩ハ空想臆斷ノ我大事ヲ敗ルノ虞ナキニアラサルヲ苦慮シ不敏ヲ願ミスシテ勿卒ノ中ニ本稿ヲ草スルニ至レリ識者幸ニ咎ムルコトナカレ官各其人ヲ得サルヘカラス人皆其職ニ適ハサルヘカラストハ獨リ監獄ニ限リタル要求ニアラス又戒護ヲ確實ニシ檢束ヲ嚴重ニシ以テ紀律ヲ張リ秩序ヲ整フルノ緊急切要ナルハ素ヨリ多言ヲ須タス然レモ是ハ監獄改良ノ本領ニ屬スルニアラス云ハ、其準備手段トモ謂フヘキモノナレハ既ニ監獄改良ニ着手スルノ一段トナリタル曉ハ復タ人物論若クハ紀律論ヲ提起

シテ嗽々スルノ場合ニアラサルヘキナリ而シテ方今監獄改良ノ意味ニ於テ當ニ施設スヘキ急務ハ何事ナリヤト問ハ、予輩ハ作業及工錢ノ改良是ナリト應フルニ躊躇セサルナリ抑モ監獄改良ニ二途アリト謂フヘキ乎即チ予輩ハ假稱シテ之ヲ奢侈的及必要的ト云フ奢侈的トハ慈惠ノ度ニ過キタルナリ其ノ結果ハ監獄本來ノ目的ヲ損スルノ傾向アリ故ニ予輩ノ主張スル所ハ必要的ノ改良ニアルコト勿論ナリ蓋シ監獄ノ最終目的ハ犯罪ヲ減殺若クハ滅絶スルニアレハ此目的ニ適合スルヲ圖ルコソ眞ノ監獄改良ナレ

成ルヘク生産的ノ作業ヲ課シ且成ルヘク多額ノ工錢ヲ貯蓄シテ出獄セシメ、是犯罪人ヲシテ復た犯罪セシメサルノ秘訣ナリトスヘシ一面ニハ監獄ノ恐ルヘク近ツク可ラズトノ感覺ヲ骨髓ニ徹セシメ一面ニハ民間ニ復歸シテ容易ニ産業ニ就キ得ヘキ機會ヲ與フレハ犯罪人ノ自ラ戒メ且他ヲ懲ラスノ實効アラシコトヲ概テ期シテ待ツヘキナリ所謂容易ニ産業ニ就キ得ヘキ機會トハ健全ナル身体ト生産的ナル手腕ト饒多ナル貯金トノ三者ニ外ナラス若シ此三者ノ資本ヲ具備スルモ仍惡行ヲ悛サル者アランカ恐クハ自由ノ意思ヲ保有セサル病的ノ徒ナランノミ是故ニ予輩

ハ敢テ斷言スラク暫ク先ヅ作業及工錢ノ改良ヲ以テ監獄改良ノ標的トナスヘシ二者全キヲ得タル後徐ニ他ノ問題ニ着目スルモ未ダ決ノ遲カラサルナリ事端ノ複雑ナルハ奏功ニ利アラズ一時ニ數業ヲ兼濟セントスルハ抑モ亦難ヒ哉況ヤ作業及工錢ノ二事改良ヲ了スルトキハ既ニ著大ナル成績トスヘキヲヤト

尋テ予輩ハ試ニ作業等改良ノ順路ヲ略説スヘシ囚人ヲ使役スルノ方法三アリ一切受負、獨行營業及約束受負是ナリ一切受負トハ一監獄全体ノ囚人ヲ擧ケテ之ヲ受負人ノ經理ニ委任スルヲ云ヒ獨行營業トハ所謂官司業ニシテ監獄自ラ資金ヲ投シ損益ヲ負擔シテ隨意ニ營業スルヲ云ヒ約束受負トハ望人ト約定シテ囚人ノ勞力ヲ一日幾何ノ賃銀ヲ収メテ貸付スルヲ云フナリ第一ノ方法ハ頗ル有害且ツ危險ナレハ萬一ニモ之レヲ費用スル監獄アラハ速ニ改メンコトヲ要ス又々第三ノ方法モ受負人ノ權勢強盛ナルトキハ監獄ノ目的ヲ蹂躪セラル、ノ虞アリ故ニ成ルヘクハ獨行シテ營業スヘキコト勿論ナレトモ巴ムナクシハ少數ツ、ノ囚人ヲ許多ノ受負人ニ貸付スヘシ是仍幾分カ監獄ノ不羈獨立ヲ維持スル所以ナリ之ヲ要スルニ囚人ノ作業上他ノ牽制ヲ蒙ルトキハ行刑ノ嚴正ヲ

危フスルノ恐多シ本問題ハ故セーバツハ氏ノ復命書ニ講義録ニ詳悉シテ剩マサ、レハ今ハ細説セス

囚人ヲ強制シテ作業セシムルハ結局何ノ爲メナリヤ是往年最囂然タル大議論ヲ招キタル一問題ナリシカ今ヤ既ニ定奪ヲ經テ還タ若役説ヲ唱道スル者アラサルナリ故ニ方今ノ定説ハ人ハ勞セサレハ食セストノ天則ニ據リ且ハ經濟上ニ於テモ生産的ノ人力ヲ空ク獄裡ニ委棄スルノ不得策ニシテ加フルニ行刑上収利的ノ工藝ヲ授クレハ出獄後再犯ノ患ヲ減スルノ効益アルヲ以テ各個人ニ適應スル生産的及成ルヘク収利的ノ作業ヲ課スヘシト云フニ歸セリ此定説ヲ實行セシニハ一ニ作業ノ種類雜駁ナラサル可ラス如何トナレハ各個人ノ成業ヲ容易ナラシムルニハ其從來慣熟セル所謂素修ノ作業ニ就役セシムルヲ要シ各個人ノ職業(若シ熟業ナケレハ其賦性)ハ種々無量ニシテ容易ニ端倪ス可ラサレハ監獄ノ紀律ニ牴觸セス又安寧ヲ危害セサル限り成ルヘク廣ク諸般ノ工藝ヲ網羅セサル可ラス尙獨リ工藝ニ止マラス農業ヨリ各種ノ勞役ニ至ルマテ凡ソ世ニ有リト有フル職業ハ多々益々便ナリト謂フヲ得ヘシ是常人ノ職業トノ競争ヲ避クルガ爲メニモ必要トスル所ナリ二ニ作業ハ成ルヘ

ク収利的ナラサル可ラス如何トナレハ作業者ハ必至ノ勉強ヲ以テ勞働スルモ収利少キ業ナランニハ衣食費償フヘカラス食物書籍ノ購給許容ス可ラス出獄後營生ノ資本貯蓄ス可ラス而シテ作業ノ一大目的タル無形ノ資本即チ自己(及父母妻子)ノ糊口ヲ計ルヘキ腕前ヲ作ルヘカラサレハナリ例ヲ設ケテ辯明スレハ監獄ニ拘禁中五年十年ノ永キ間斷ナク藁打ニ就役シタリトスルモ將來ノ爲メ何ノ得ル所カアル要スルニ藁打ノ業ニ依リテハ一人ノ糊口サヘモ成ル間敷ナリ況ンヤ家族ヲ養フカ如キハ到底望ムヘカラサルヲヤ藁工全廢ニ至ラサレハ監獄ノ改良ヲ談スヘカラストノ極端論ヲ爲スモノアルモ決シテ無理ナラサルナリ茲ニ一人アリ大工職ヲ習ヒ未タ一人前ノ業ニハアラサルモ尙能ク一日十錢ノ賃銀ヲ得タル者偶々犯罪アリ獄ニ投セラレ三年間藁工ニ就役シ放免ノ後大工ニ復業セント欲スルモ腕鈍リテ用フベカラズ去レバトテ藁工ニ依リテ衣食ヲ求メンカ深更マデ夜業ヲ執ルモ得ル所僅ニ三五錢ニ過ギザルベシ乃チ其者ノ生産的價值ハ宛カモ半減トナリタルガ如キナリ此ノ如クニシテ猶國民經濟上損害ナシト謂フベキカ

人ノ思想ハ境遇ニ由リテ殊異ナリ眼ニ視ル所耳ニ聽

ク所其人ノ精神ニ何等ノ大勢力ヲ加フルヤハ予輩ノ  
 辯ヲ須タザルベシ況ヤ毎日心身ヲ擧ゲテ一任スル所  
 ノ業務ヲヤ是ヲ以テ道德的ノ教育ヲ必要トスル囚人  
 ノ作業ニハ最深ク注意セザルベカラザルナリ即チ野  
 卑粗放危險醜陋等ノ動作ヲ交フル作業ハ首トシテ禁  
 忌セザルベカラズ

于時冗長ノ議論モ亦禁忌セザルベカラズ餘ハ春暖長  
 日ヲ俟テ年ノ改マルト共ニ題ヲ更ヘテ論述スルコト  
 シ茲ニ開筆ス

### 寄書

#### 科程外作業工錢ノ範圍ニ付テ

在北海道函館 工藤 襄稿

抑モ本題ヲ研究スルニ當リ工錢ハ權利の給與ノ性質  
 ナルヤ將タ恩惠的贈與ノ性質ニ出ツルヤハ姑ク置キ  
 先ツ科程外作業ノ性質ハ如何ナルモノナルヤヲ講究  
 スルハ寧ろ本題ニ付キ必要有益ノモノタルヲ信ス  
 夫レ科程外作業トハ如何ナル性質ヲ有スルヤ科程外  
 作業トハ服役時間外而カモ服役ノ義務ナキ場合即チ  
 作業上作否ノ自由ヲ有スル時日ヲ言フ尙ホ之ヲ換言

シ之ヲ詳陳セハ科程外作業トハ其服役ハ法律上定役  
 囚ノ義務トシテ強要スベキノ場合ヲ指スニ非スシテ  
 其服役ハ本人ノ自由ニ出テ、爲シタル時ヲ云フ己ニ  
 科程外ノ作業ハ斯ノ如キ性質ヲ含有スルモノトセハ  
 其ノ工錢ノ性質モ亦異ナラサルベカラサルハ事理ノ  
 正ニ然ル可キ處ナリ然リ而シテ監獄則第二十二條ノ  
 末項ニ曰ク定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ  
 爲スルハ工錢モ亦之レニ準スト其ノ之レニ準スル所  
 以ノモノハ假令定役ニ服ス可キ囚徒ナリト雖モ必ス  
 ヤ服役労働ス可キ一定ノ時間アリテ存スルナリ然ラ  
 ハ其時間ト科程トヲ終了セハ此處ニ初メテ定役囚ノ  
 要件タル服役ノ義務ヲ了ヘタルモノトセザルベカラ  
 ス然レモ定役囚自身ヨリ此ノ義務ヲ既了シタルニ拘  
 ハラス尙ホ其ノ勉勵心ヨリシテ科程外ノ作業ヲ爲サ  
 ント請フハ是レ改悛ノ幾分ヲ表スル所ノモノニシテ  
 感化改良上ノ必要ヨリ司獄官ハ飲テ之ヲ許サ、ル可  
 カラス茲ニ於テカ之ヲ獎勵シ之ヲ誘引スルノ因縁ト  
 シテ工錢ノ幾分ヲ高メザルベカラズ是レ科程外作業  
 ノ工錢ハ無定役囚刑事被告人及懲治人作業工錢ノ給  
 與割合ト其ノ都合ヲ同フシタルモ亦此ニ職由シタル  
 ニ外ナラザル可キヲ信ス然レハ則チ科程外作業ナル

モノハ平常往々頼々アル可キ所ノモノニアラスシテ  
 稀レニアル所ナリ要スルニ監獄則施行細則第五十二  
 條ニ於ケル免役日ノ如キ服役ノ義務ナキ場合ニ使役  
 シタルモノニ對シ科程外ノ工錢即チ十分ノ六ヲ給ス  
 ル事トセシモ是レ恩惠ニ出テタル服役ノ義務ナキ免  
 役日ニ労働セシモノナルヲ以テナリ蓋シ科程外工錢  
 給與ノ範圍ハ之ヲ汎漠ニ解センヨリハ寧ろ狹隘ニ解  
 スルノ適法ナル可キヲ信ス之ニ仍テ之ヲ視ルルハ假  
 令定役囚ニシテ服役時限内ニ於テ已ニ其ノ當日ノ科  
 程ヲ終了スルモ服役時限内ハ囚徒ヲシテ科程ヲ了ヘ  
 タルカ爲メニ晏如拱手セシム可カラサルハ是レ治獄  
 ノ要訣ナレハ尙ホ其罷役時間マテ労働セシメサルベ  
 カラス之ヲ以テ科程終了後罷役時間マデニ於ケル勞  
 働ニ對スル工錢ハ宜シク十分ノ六ニアラスシテ重罪  
 囚ニハ十分ノ二輕罪囚ニハ十分ノ四ヲ給スルヲ相當  
 トス可キナリ何トナレハ服役時限内ニ早く已ニ當日  
 ノ科程ヲ終了スルハ要スルニ科程賦課其輕キニ失ス  
 ル乎又ハ製品粗造ノ結果ニ出ツルカ二者何レカ其一  
 ニ起因セザル可カラズ且ツ在監人動作時限表ニ示ス  
 服役時限中ハ假令科程ヲ了ルモ定役囚ノ義務トシテ  
 法律上労働ヲ強要スルヲ得可キ要件ヲ具備スル時間

ニシテ又監獄則ニ於テ作業科程ヲ 賦課スルニ當リ  
 科定ト稱セシテ特ニ科程ト稱セシハ服役時限内ニ  
 科程ヲ終了シ尙ホ罷役マテ時間ノ餘裕アルルハ罷役  
 時間マテニ適合スル科程ノ幾分ヲ配増シ得可キヲ  
 意味シタルモノニシテ取モ直サス服役時限内ニハ科  
 程外ノ作業ヲ生スルノ謂ハレナキヲ示シタルモノナ  
 リ  
 吾人ハ今斯ク論シ斯ク陳ヘシナラハ議者將サニ聲ヲ  
 勵マシテ言ハントス監獄則第二十二條ノ末項ハ要ス  
 ルニ作業服役者ヲ獎勵スルニ出テタルモノナリ故ニ  
 假令服役時限中ナリト雖モ科程ハ監獄則第十七條ニ  
 規定スルガ如ク毎囚ノ体力ニ應ジテ一日ノ科程ヲ定  
 メテ課スルモノナレハ當日ノ科程ヲ終了シタルモノ  
 ハ即チ一日ニ對スル定役囚タル義務ヲ盡了シタルモ  
 ノト推測セザルベカラズ若シ時限内ニ於ケルト雖モ  
 當日ノ科程ヲ了ヘタル後罷役時間マテニ爲シタル勞  
 働ニ對シ科程外ノ工錢即チ十分ノ六ヲ給與スルニ非  
 サレハ誰レカ人情トシテ科程外ノ作業ヲ爲サント請  
 フ者ナカル可シ況ンヤ社會ニ在リシキ生業ヲ爲スヲ  
 忌ミ嫌ヒ懶惰放慢ノ習慣ニ生育シツ、露命ヲ繫キ來  
 リ之等ノ諸件ハ因トナリ果トナリ因テ以テ犯罪ヲ醸

成シ刑罰ノ制裁ヲ受ケタル囚徒ニ於テオヤ凡ソ人ノ勞ヲ厭ヒ難苦ヲ避ケントスルハ人情ノ止ムヲ得サル所ナリ然ルニ此難苦ヲ排シ勞力ヲ厭ハス進テ科程外斯ノ作業ヲ爲サント欲スルハ平素ノ工錢給額ニ對シ幾分ノ増加ヲ見ル前途ノ希望心ヲ有スレハナリノ如キ希望心ヲ以テ科程外作業ヲ爲サントスルハ要ルニ感化改良ヲ發芽シタル者ナリ之ニ對シ普通ノ工錢(重罪囚ニハ十分ノ四、輕罪囚ニハ十分ノ二)ヲ給與スルハ作業ノ希望心ヲ獎勵スル要途ヲ阻絶スルニ至ルヲ免カレズ豈ニ作業ヲ獎勵スル監獄則第二十二條ノ旨趣ヲ充タヌヲ得ンヤ畜ニ之ヲ充タヌ能ハサルノミナラス司獄官ハ囚人ノ作業ヲ獎勵スルノ職ニアリナカラ却テ之レ等ノ希望心アルモノマテモ驅テ以テ自暴自棄ノ精細ヲ惹起セシムルノ誹ヲ免レスト議者ノ言然リ吾人謹而耳ヲ開キ一聞敬畏スル處ナリ然レモ未タ敬畏敬服スル能ハサル所アリ然ラハ何ヲ以テ之ヲ言ヒ何ヲ以テ証徴スルカ曰ク議者ノ言フ所若シ當日ノ科程ヲ課シ之ヲ終了スルモ尙ホ服役ノ義務アルモノトシテ服役時限内ニ於ケル勞働ニ對シ其ノ工錢ハ十分ノ六ヲ給セスシテ重罪囚ニハ十分ノ二輕罪囚ニハ十分ノ四ヲ給與スルハ作業ノ勉勵心ヲ喪失セシムルモノナリト云ト雖

ヒ吾人ヲ以テ之ヲ評スルモハ實ニ皮淺見ノ論志ナルヲ免カレズ何トナレハ若シ服役時限内ニ於ケル科程終了ノ後罷役時間迄ノ餘暇ニ於テ爲シタル勞働ニ對シ其工錢ハ十分ノ六ヲ給スルトセン乎囚人ヲシテ益々情慾ノ念慮ヲ起サシムルノ弊害意思ノ外ニ出ツルモノアルヲ推想セサルベカラズ或ハ製品ヲ粗造シテ其員數ノ多額ヲ期シ又ハ他囚ノ製品ヲ奪取シテ以テ自己カ製品ニ混入シ其ノ員數ノ多額ヲ示スモノアルニ至ル可シ是レ等些細ノ事ニ至レハ製品粗造ノ弊ヲ矯ムルニハ精檢査數ノ途ヲ嚴ニシ製品ノ奪領ヲ制スルニハ戒護者其視察ヲ綿密ニシ因テ以テ之レ等ノ弊ヲ刈除スルノ方法アリト云フベシト雖モ事ノ實際ニ付キ其至難ニシテ容易ナラサルヲ如何セン斯ク言ハ、議者或ハ言シ是レ當局者其者ノ明ナラサル所以ニシテ敢テ囚徒ノ罪ニ非ス之ヲ換言セハ當局者明ナラサルノ罪ヲ以テ之ヲ囚徒ニ嫁スルモノナリ之レ等事實ヲ口實トシテ科程外工錢給否ヲ論斷スルノ証據ト爲ヌヲ得ンヤト吾人モ亦之ヲ知ル己ニ久ラス矣議者又言ハントス然ラハ定役囚ニ給與スル科程外工錢トハ服役時限外及ヒ監獄則第五十二條ノ場合ニ限ル乎ト吾人ハ之レニ斷乎トシテ然リト答フルヲ憚ラ

ナルナリ蓋シ監獄則施行細則第五十二條ハ監獄則第二十二條ヨリ胚胎生出スル而カモ第二十二條ノ解釋ヲ與ヘタルモノナリ然レハ即チ科程外作業トハ之ヲ嚴酷ニ解スルモハ施行細則第五十二條ノ場合ニ限ルト言ハント欲スレモ猶ホ之レニ加フルニ服役時限外ノ勞働モ認メテ科程外作業ト併稱セントス施行細則第五十二條ニ曰ハスヤ免役日ニ於テ囚人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ供スルモハ科程外ノ工錢ヲ與フ可シト讀者諸君モ已ニ業ニ領知スル如ク監獄則第二十二條ノ末項ニ於テ定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲スモ亦之ニ準スト(十分ノ六ヲ給與スルヲ云フ)而シテ該條ニ於テハ服役時限外ニ於テ爲シタルモノハ科程外ノ作業ナルヤ又ハ全則第十七條ニ於テ囚人一ノ日ノ作業科程ハ毎囚ノ体力ニ應ジテ課スルコトヲ已ニ規定シタル者ナレハ則チ假令服役時限内ト雖モ其當日ノ科程ヲ終了シ罷役迄ノ餘裕時間ニ爲シタル勞働ヲ以テ科程外ノ作業ト爲スベキヤハ敢テ判然規定スル所ナシ之レ惑ノ生スル處ナルハ人モ唱ヘ吾人モ亦感テ同フス此ノ疑團ト或ヲ生セサラシメンカ爲メニ立法者特ニ注意ヲ加ヘ施行細則第五十二條ニ於テ云々ノ用ニ使役スルモノハ科程外ノ工錢ヲ給與ス可シ

ト判然科程外工錢給與範圍ノ定義ヲ與ヘタルモノナリ則チ又本條ヲ裏面ヨリ之ヲ見ルモハ本條已外ノモノニ對シテハ科程外ノ工錢ヲ給與セサルモノナルコト暗々裏中ニ規定スルモノ、如シ已上記スル處ヲ以テ之ヲ見ルモハ科程外ノ工錢ヲ給與スル場合ハ唯リ免役日又ハ服役時限後勞働シタルモノニ限リタルモノナルヲ信ス然レモ吾人ノ淺學淺見素ヨリ其正鵠ヲ得ルニ苦シム大方讀者幸ニ高教ヲ賜ハ、幸甚謝スル所ヲ知ラサルナリ

●在監人遺体下付手續ニ就テ

靜岡 一 法 道 人

本誌第三卷第十三號(昨廿五年發兌)雜報欄ニ於テ記者ハ在監人遺体改葬手續ト題シ當局者ニ一片ノ注意ヲ與ヘタリ其要ヲ摘擧セハ曰假葬セシ遺体ヲ親屬故舊ニ下付スルニ當テ之ヲ發掘スルハ警察官ノ認許ヲ要セズ理由ニ曰假葬ハ本葬ニ非ズ故ニ之ヲ發掘シ埋葬スルハ改葬ニ非ズシテ本葬ナリ然レハ墓地埋葬取締規則ノ制裁ヲ受クベキ筈ナシ要スルニ監獄ニ於テ適宜之ヲ處分シ敢テ警察官ノ監督ヲ要スルニ及ハス云々

此說一應理由アルカ如シト雖モ未ダ遽カニ承認スル能ハズ何トナレハ監獄ノ權限ト警察ノ行爲トヲ混淆シタル俗論ニシテ法理上ノ論據ヲ有セサルモノナレハナリ吾輩ハ下ニ二者ノ權限ヲ擧ゲ此說ノ當否ヲ判斷セントス

一 遺体下付ニ付之ヲ認否スルノ權如何

在監人遺体下付ノ權ハ固ヨリ監獄ニ屬シ敢テ警察ノ干涉ヲ要セサルヤ論ヲ俟タズ故ニ之ヲ下付スルニ方リ其遺体ノ未タ監獄ニ在ルトト將タ既ニ埋葬シタルトヲ問ハス苟モ監獄ノ認メテ下付スヘキ者タルヲ知リタルキハ之ヲ認許スルニ何等ノ條件ヲモ必要トセズ反之下付スヘカラサル理由ヲ認タルキハ之ヲ拒否スルヤ當然ニシテ要スルニ其認否ハ監獄ノ權利ニ屬ス然バ乃チ之ヲ發掘スルニ方リ記者ノ所謂警察官ノ認可ヲ要セシトハ蓋シ下付認否ノ權限ヲ指シタルモノニ非スシテ只發掘ノ行爲アルニ方リ其事實ニ就テ警察ノ認許ヲ要セシトノ意ナラン若シ然ラスシテ遺体下付其者ニ付テノ認否ナリトセハ監獄ノ權利ハ爲ニ警察ニ侵犯セラレタルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ之ヲ認否スルハ監獄絕對ノ權利ニシテ關係ノ事情ニ繫カルヘキモノニ非サレハナリ換言スレハ遺

体下付ノ權利ト之ヲ發掘スル行爲ニ關スル監督ノ權利ハ各別ニシテ決シテ連絡シタル一行爲ニ非ザルナリ前者ハ監獄ニ屬スルカ故ニ監獄ノ權内ニ於テ之ヲ處分シ後者ハ警察行爲ナルヲ以テ警察ノ適宜ニ之ヲ處分ス而テ所謂警察ノ認可ヲ要ストハ後者ノ場合ニ關スル行爲ナル以上ハ監獄ノ濫リニ之ニ容喙スル能ハザルヤ明ナリ一任斯ノ如キハ徒ラニ人民ニ繁難ノ手數ヲ掛ル而已ニシテ無用ノ業ニ屬スト雖モ這ハ警察行爲ノ發動ニシテ監獄ノ職權ニ毫モ影響スベキモノニ非ズ其手段ノ是非得失ヲ批評スルハ格別之ヲ以テ直ニ違法無益ノ業ナリトシ以テ之ヲ排斥セントスルハ監獄ノ爲シ得ベキ權利ニ非サルナリ由是睹之遺体下付ノ權限ハ絕對ニ監獄ノ權利ニ屬スルモ其以外ニ在テハ最早何等ノ權利ヲモ有セザルモノト知ルベシ

埋葬シタル遺体ヲ發掘スルハ公安上放任スベキモノナルヤ若シ放任スベカラザルモノトセバ其監督ハ何レニ屬スルヤ

遺体下付ノ權利ハ監獄ニ屬スルモ其以外ニ在テハ監獄ニ何等ノ權利ナキハ既ニ前段ニ於テ明ナリ然バ之ヲ發掘スルニ方リ全ク人民ニ放任スベキヤ否蓋シ公

安上ノ必要ヨリ之ヲ放任ス可ラザルハ多辯ヲ要セズシテ明ナラン何トナレバ其行爲タル社會ノ秩序ニ關スル者ナレバナリ然バ則チ何人ヲシテ之ヲ監督セシムベキカ抑モ警察ノ目的ハ吾人ノ生活上ニ及ボサントスル危難ヲ防衛スルニ在リ而テ其危難ハ人爲、天然ノ二者ニ基ク故ニ苟モ行爲ノ危難ヲ有スルモノハ其手段ノ消極タルト積極タルトヲ問ハズ未然ニ之ヲ防遏シテ秩序ノ保安ヲ期セザル可ラズ果然バ遺体ヲ發掘スルニ方リ之ヲ監督シテ秩序ヲ保持スルハ警察行爲ノ範圍ニ屬スルヤ明ナリ如斯警察行爲ハ全般ノ事業ニ干涉スル者ナルカ故假令ヒ一部關係ノ事情ニ由リ危難ノ程度ヲ減殺スルモ之ヲ以テ警察行爲ヲ止ムベキニ非ズ民間ノ設立ニ關ル墓地モ監獄ノ管理ニ屬スル墓地モ之ニ關スル秩序ノ保安ハ其間毫モ軒輊アルコトナシ蓋シ記者ハ監獄ナル一官廳ハ國家行政上幾許ノ權利ヲ有スルヲ以テ兼テ右等ノ監督モ監獄自ラ之ヲ爲シ警察ノ干涉ヲ脱セシメント期スルモノナルカ是恰モ獵者ヲシテ海ニ漁セシムルト一般謬妄モ亦甚シト言フベシ若シ斯ル主義ヲ以テ警察行爲ヲ觀察セバ警察トハ單ニ人民(官廳ニ對シテ)ノ危難ヲ防衛スルモノニシテ官廳ノ秩序ハ凡テ其官廳ニ於テ之

ヲ保持スルモノト言ハザルベカラズ警察ノ目的茲ニ於テ破レタリト謂フベシ

以上ノ論理ニシテ敢テ過チナカラシカ吾輩ハ將ニ左ノ如ク斷セントス

埋葬シタル遺体ヲ發掘スルハ警察官ノ認可ヲ要ス而テ其假葬タルト本葬タルトハ固ヨリ問フ所ニ非ズ斯ク言ヘバ記者ノ說ノ當否ハ自然明瞭ナラン

記者ガ假葬ナル文字ニ固着シテ云々スルハ畢竟單純ノ理由ヲ寓スル形式ノ文字ヲ根據トシタルモノニシテ複雜ナル事實ノ關係ヲ穿鑿シテ實積的ノ觀察ヲ忘却シタルニ因ル記者知ラズヤ埋葬シタル遺体ヲ發掘スルハ公安上ニ關係スルヲ亦知ラズヤ其公安上ノ關係ハ假葬シタルモノナルト本葬シタルモノナルトニ由リ區別ナキヲ既ニ此等ヲ知ラバ將サニ下ノ如ク解セザルベカラス曰警察ガ右等ノ行爲ヲ監督スルハ當ニ其本性ナリト

而テ吾輩ガ所謂認可トハ記者ノ所謂認可トハ其場合ヲ異ニス記者ハ監獄ガ遺体下付ノ認許ヲ與フルト同時ニ又警察官ノ認許ヲ要セシ云々ト云ヘリ斯ノ如キハ敢テ警察官ノ認許ヲ要セザルハ吾輩モ亦左袒スル所ナリ何トナレバ事前ノ認諾ハ監獄ノ權内ニ屬シ

警察ノ干渉スヘキモノニ非サルハ已ニ前述シタル次第ナレハナリ然レモ吾輩カ所謂認可トハ事後ノ認諾ニシテ這ハ警察行爲ノ發動トシテ當然警察ノ權内ニ屬ス其場合如何日警察官カ監督ノ結果之ナリ例之ハ或遺体ヲ發掘スルニ當リ警察官ハ之ヲ監視シテ秩序ノ危難ヲ維持ス而テ其監視ハ單ニ袖手傍觀スルモノニ非スシテ苟モ危難ノ模様アルニ際シテハ直ニ之ヲ差止メ以テ其行爲ヲ禁止スルニアリ換言スレバ此場合ニ於テ之ヲ認許スルト之ヲ否拒スルトハ警察ノ權内ニ屬ス故ニ警察官ノ之ヲ否拒セザル場合ハ則チ暗黙ニ之ヲ認可シタルノ結果トナルベシ記者ハ敢テ警察官ノ監督ヲ要セズト言ヘリ而テ吾輩ノ意見ハ正ニ是ニ反スル如斯記者ノ再考ヲ煩ハシ併テ教示ヲ乞フ

(第三卷第十三號參照)

● 刑事被告人ノ帶毛長三尺ニ限ル乎

如夢居士

我監獄則ニテハ刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ赤實ニシテ衣類ヲ自辨スルヲ能ハサル者ニハ之ヲ貸與スルヲトセラレタリ故ニ刑事被告人ハ衣服ヲ自辨スルカ當然ナリ而テ其衣服ニ付テハ別ニ制限ナキヲ以

一二人縊首スル者アリトスルモ多クハ精神ノ錯亂セシ者ナルヘシ斯ル稀有ナル場合ヲ慮リ一般ニ在監人ヲ精神病者視シテ帶ノ長サヲ定ムルノ道理ナシ當ニ道理ナキノミナラス前陳ノ如ク縊首ヲ防クノ効能アルヲナシ夫レ精神病者ノ縊首ヲ防クニハ單ニ帶揮ノミナラス他ニ注意ヲ要スルヲ少カラス然ラハ論者ノ說ハ一モ探ルニ足ラサルヲ以テ余輩ノ說ニ從フノ外ナカルヘシ然ルニ實際ニ於テハ論者ノ說往々相行ハレ帶モ揮モ長三尺ニアラサレハ總テ之ヲ用フルヲ許サス其結果博多ノ帶モ縮緬ノヘコ帶モ之ヲ切斷セサルヲ得サル場合アリ是等ハ事少ナリト雖モ監獄改良論ノ盛ナル今日ニ在テハ斯ル誤見ヲハ排斥シテ速ニ其取扱ヲ改メタキモノナリ

● 刑期計算に就てIH生の質疑

に答ふ

在大坂 洋々 散士

本誌第三卷第十六號に於て、刑期計算に就てと題し刑期の通算方に就て、IH生あるもの實例を擧げて質疑せられたり、散士一讀して其問題の易々たること及監獄官吏の常に辨へ居らざる可らざる事柄なれ

テ或ハ綿服ヲ用ヒ或ハ絹布ヲ用ルモ敢テ差支ナシ然ラハ帶ノ長サハ如何是又制限ナキヲ以テ通常ノ物ニテ差支ナキ筈ナリ然ニ或ル論者ハ監獄則施行細則第五十八條ニ帶長三尺ト定メアルヲ以テ刑事被告人ト雖モ長三尺以上ノ帶ヲ用フルヲ得スト云フ然リ刑事被告人ト雖モ赤貧ニシテ自辨スル能ハサル者貸與スル帶ハ長三尺ニ限ル然レ其自辨スル衣服ニ付テハ制限ヲ加フル者ニ非ス蓋シ貸與スル衣類等ハ在監人相當ノ物ニテ且費用ノ低廉ナルヲ要ス故ニ夫々規定ヲ爲シタル者ナリト雖刑事被告人カ自辨スル衣服等ニ付テハ右等ノ必要ナシ則身分貴キ者ハ美服ヲ用フヘク又身分ノ賤シキ者ハ鹿服ヲ用フヘク從テ或ハ長キ帶ヲ用ヒ或ハ三尺帶ヲ用フルモ其隨意ナレハナリ論者又曰ハン假令刑事被告人ニモセヨ三尺以上ノ帶ヲ許スルハ縊首スルノ虞アリ故ニ自辨ノ品ト雖之ヲ許サルナリト論者ハ一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサル者ト云フヘシ若シ規則ノ精神論者ノ說ノ如クセハ三尺帶ト揮トヲ結ヒ合セテ縊首スルノ虞アルヲ以テ何レカ其一方ヲ禁セサルヘカラサルニ至ラン不當モ亦甚シカラスヤ況ヤ在監人中掛替ナキ大切ナル命ヲ捨テ縊死スル馬鹿者殆ト之ナキニ於テヲヤ良シ千百人中

ども、殊更に質疑を要する程の價值なきを知る、而れども今日の監獄官吏にして、IH生の如き意見を有するものあるに至ては、少しく疑なき能はざる所あり、散士茲に淺識不才を顧みず、聊か之れが解答を試み當事者の參考に供し、併て質疑者をして氷解せしめん、質疑者曰く某裁判所に於て、重禁錮五月に處せられ其の刑執行済の後、餘罪發覺の爲め更に一年の處分とあり前後の刑を通算すべき實例を擧げて甲乙の二論に分たれたり、甲説は一年即三百六十五日(閏年は三百六十六日)より五ヶ月即百五十日を差引き、殘期二百十五日を執行すべしと云ふ、乙論者は一年即十二月を以て是より五ヶ月を控除し、殘餘の七ヶ月即二百十日間を執行すべしと云ふにあり、散士は其甲説の正當にして、乙説の不可あるを知れり、今や一言乙説の非なる點を擧げて、以て甲説の是なることを明にせん、今乙論者の理由を擧ぐれば一年と十二月と孰れに於てするも強ち咎む可きにあらず、然れども兩理併存すべからざるは言を俟たざるに依り假りに、兩算法の内何れを取るも、差支あしとせば斯る際には本人の利益を慮るは、法の認むる所なればなり、果して然らば一年を十二ヶ月として、前刑を

引去り殘期七ヶ月即二百十日を執行せば五日の利を得べし云々と云ふにあり、此の理由たるや、實に刑法第四十九條中の一年を法律上の十二月と同一ありと誤解せし過に歸せざるはある可らざる、抑も刑法第四十九條に一月と稱するは三十日を以てし、一年と稱するは曆に従ふとあり、然らば法律上の一年と稱するは曆に従ふを以て、普通の一年と寸毫も異なるを以て、而して普通の一年は普通の十二月より成立すると雖法律上の十二月を以て、一年と稱すること能はざるや明かり、果して然らば一年を法律上の十二月と見做し其内より法律上の五月を減し能はざるは彼算法の初歩諸等を學ぶもの、能く知る處なり然るを堂々たる監獄官吏にして如斯の算法を用ゆる者あるは散士の疑ふ偶然に非ざるなり、何とあれバ同名同質の者に非ざれば加減すると能はざるは算法の原理あり、假令は里數より直に町數を減し能はざるを以て諸等法に依り里數を町數に改め然る後町數を減するが如し、然らば甲説の主張する處の法律上の一年を法律上の月數(十二月)に改て、之れより法律上の五月を減するは誠に正當の事と云ふべし(尤も一年を日數に改めて法律上の五月を日數に改めて減するも其の理同じ)然るを乙論者は一年

を三百六十日とせられたり、三百六十日は法律上の十二月あるも法律上の一年にあらざるを如何せん、實例は五ヶ月を十二月に通算すべしと命じたるにあらざりして、五ヶ月を一年に通算すべしとあればなり然らば一年を法律上の月數に改め(十二月)法律上の五月を扣除せざれば通算の實を得ざればあり、然るにI日生は乙説に左袒し且附延して曰く一年のものを殊更に十二月に引直すが如き迂を學ばざれども年未滿の者に至ては、常に一ヶ月三十日の割合を以て算出せざるを得ず、故に扣除法に依り五ヶ月を扣除したるときは年未滿となるを以て計算法方一變せしものなるを以て、年以上の計算法方に依るべきものにあらざり依て殘期七ヶ月を(二百)執行せば可かりと散士例を擧げて其の不可なるを示さん今茲に罰金壹圓を納めたるものあり而るに餘罪發覺の爲一年の處分とあり通算するの實例ありと假定せんかI日生の如くなれば一年より一日扣除するるとき殘期は法律上壹年と云ふことを得ず、依て端數は年以下の計算法方に依り三百六十日を執行するが如くなり一日通算の爲に四日の利益を得るが如し豈に其の當を得たるものと云ふを得んや、然らばI日生は日に大に通算たるの

意を誤解せしものなり、抑も通算あるものは其の法方に於ては後發の重き刑より前發の輕き刑の執行濟(但し未確定期間は刑期に算入するを以て執行濟のものと同じの効力あり)の分を扣除して殘餘の刑を執行するを以て單に通算する語は重刑より、或執行濟の日數を減じ其の殘期を執行するの意味なるが如しと雖も通算は決して如斯の意味にあらざり、則後發の重き刑の中に前發の輕き刑を入れるの趣旨に外ならず依て其の自然の結果如斯の法方となるのみあり、若し然らずんば茲に判決濟のものにて保障を得たる後更に餘罪發覺して前刑より重き刑に處せられたるものありと假定せん歟、前者の理由を以てするときは扣除の日數なきを以て通算すること能はざれども、散士の説に依るときは重刑中に入れるの意あるを以て敢て不可なきなり由是觀之通算に於て、扣除したる場合は年未滿のものを執行するにあらざりして、年以上の刑を執行するものと云はざるを得ず、果して然らば年未滿のものを見做し一ヶ月三十日の割合を以て算出すること能はざるは瞭々乎として火を賭るよりも明かり、聊以てI日生の質疑に答ふと云爾

●在監人營養物攝取明細表に就て (承前)

在埼玉縣 草刈 次郎 稿

- 一 食量分析ノ各欄ヲ蛋白質脂肪質有機物灰分質及合計ノ五欄ニ大別シ尙ホ各欄ヲ小區分シテ動物性植物性及小計ノ三欄ニ分ツテ日々攝取スベキ物品ヲ分析シテ其成分ヲ記載スルモノトス
- 但シ本表ハ衛生局東京試驗所ニ於テ分析シタル營養品分析表ニ準據シテ其成分ヲ算出記載シタルモノナリ
- 一 末欄合計ノ欄ニハ毎日攝取スル成分ノ合計量ヲ掲記スルモノトス
- 一 各小計及ビ合計ノ欄ノ下段ニ一ヶ月攝取物品ノ全量及ビ全量ニ對スル價額及滋養分ヲ合計シ次ニ一人一日ノ物品攝取ノ量滋養分ノ量及ビ價額ノ平均數ヲ掲グルモノトス(別表略ス)

●囚人ノ所罰ハ典獄ニ於テスルヲ要ス

霞堂 主人

我國民ハ帝國憲法第二十三條ニ於テ日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問所罰ヲ受クルコトナシト確保セラル其我々ノ權利ノ貴重ナルコト知ルヘキナリ故ニ微々タル違警罪ヲ犯シタル者ト雖モ法律ヲ以テ構成スル所ノ裁判官ノ裁判ヲ受クヘキモノトス勿論明治十八年九月ノ布告ヲ以テ違警罪即決例ナルモノヲ定メラレタルニヨリ今日ハ警察署長及分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決ス其即決言渡ニ對シ不服ノ者ハ正式裁判ヲ請求スルコトヲ得此正式裁判トハ即チ區裁判所判事ノ裁判ナリトス右違警罪ノ即決ニ付有益ナル話アリ余ハ奎堂先生ナリシト記憶ス或時先生某警察署長ニ向テ尋テタルキ署長ノ曰ク被告人ノ訊問ハ警部若クハ巡查ニ之ヲ爲サシムト雖モ其言渡ハ必ス署長躬ラ之ヲ爲スト先生之ヲ聞テ嘆シテ曰ク是レ本末ヲ誤リタルモノナリ何トナレハ肝要ナル訊問ヲ他ニ委任シテ其言渡ノミ躬ラ之ヲ爲スモ何ノ効アラナヤト余ハ先生ノ說ニ敬服ス

此警語ハ囚人ノ處罰ヲ行フニ當リ要ナキカ余ハ斷言ス典獄モ亦此語ヲ服膺セサルヘカラスト夫レ獄則處分ハ行政上ノ取締ニ過キサレハ違警罪ニ比較スヘキヲヤ

モノニアラスト雖モ其結果ニ於テハ寧ロ違警罪ヨリハ利害ノ大ナルモノアラシク見ヨ或レ違警罪ハ五錢ノ料ニ止マル然ルニ獄則違犯ノ罰ハ減食アリ闘室アリ加之有心故造ニテ再三處罰ヲ受ケタル者ハ後如何ニ行狀善良ナルモ役業ニ勉勵スルモ假出獄ノ恩典ニ與ルコト能ハス如此重大ナル關係ヲ有スルモノナレハ其手續ハ最モ鄭重ニシテ過誤ナキヲ要ス若シ其レ誤罰ノ結果囚人ノ改悛ニ障害ヲ與ヘ假出獄ノ恩典ニ與ルコトヲ得ヘキ者モ其恩典ヲ蒙ルコト能ハサルニ至ル等ノコトアラハ其責輕カラサルヘシ故ニ獄則違犯ノ申告アラハ典獄ハ本犯ヲ取調タル上處罰ノ言渡ヲ爲スヘシ若シ然ラスシテ其取調ヲ看守長若クハ看守ニノミ任スルキハ地獄ニ在テ赤鬼青鬼ニ遭ヒタルノ思ヲ懷ク所ノ否威嚴アル直接戒護者ノ訊問ヲ受ケタル囚人ハ簡様アアロナト問ヘハハイト恐入タカハイト唯々諾諾至テハ自分ハ犯則セスト申立ル者アリ是等ノ場合ニ於ケルモ尙ホ其取調ヲ看守長看守ニ一任シテ言渡ノミ典獄ニ於テ爲スコトアラハ或ハ處罰ヲ誤ルコトナキカ若シ誤ルコトアリトセハ其結果或ハ自暴自棄ノ念ヲ生シ或ハ他囚ヲ警戒スル所ノモノ變シテ怨府トナルモ

●一事ヲ再理シタルキハ  
其結果如何

如夢居士稿

或ル犯罪ニ依リ某裁判所ハ闕席ノ儘重禁錮一月十五日ノ刑ヲ言渡シタリ其後若干ノ日月ヲ經テ本犯自首セシ處其裁判所ハ審理ノ未重禁錮二月ノ言渡ヲ爲シ其裁判確定セシヲ以テ本刑ヲ執行セリ然ル處其刑執行中先ノ闕席裁判アリシコトヲ發見セリ(即チ一事ヲ再理シタルコトヲ發見セリ)此場合ニ於テ前後何レノ裁判正當ノモノトスルカ是レ余カ茲ニ研究セント欲スル問題ナリトス

雖モ本問ノ事實ハ本犯ニ於テ闕席裁判ノアリタルコトヲ知ラス即チ其裁判未タ確定セサル前ニ在テ再ヒ裁判言渡ヲ爲シ而テ其裁判確定シタルモノナレハ却テ後ノ裁判ヲ以テ正當ノモノトセサルヲ得サルノ感アリ併シナカラ一事不再理ノ原則アル以上ハ假令先ノ裁判確定セサルニモセヨ一旦終局判決ヲ爲シタル以上ハ同一事件ニ付再ヒ裁判スヘキモノニアラス即チ闕席裁判ヲ爲シタルキハ本犯ヲ逮捕シ之ヲ示シテ後確定シタル上其執行ヲ遂クヘキ者ナリトス然ルチ其闕席裁判アリタルコトヲ覺知セズ再ヒ裁判言渡ヲ爲シタルハ裁判所ノ誤リナリトス既ニ誤テ一事件ヲ再ヒ裁判シタルモノナリトセハ其爲スヘカラスシテ爲シタル後ノ裁判ノ無効ナルコトハ明白ナル道理ナリトス然レハ假令無効ナル裁判ニモセヨ一旦確定シタル以上ハ確定裁判ノ効力トシテ容易ニ之ヲ動カス能ハサルナリ格言ニ曰ク確定裁判ハ事實ニ勝ルト然ラハ則チ本問ハ一事不再理ノ原則ト確定裁判ノ効力ト衝突シタル者ト謂ハサルヲ得ス果テ然ラハ其結果如何是レ大ニ考慮ヲ要スヘキ點ナリトス然レハ余ハ未タ矯正ノ策ヲ考ヘ出サレナリ或ハ法ノ欠點ナルカ尤モ強テ之ヲ矯正セント欲セハ、刑事訴訟法第三百一條

第二ヲ適用シテ再審ノ訴ヲ爲シ後ノ裁判ヲ取消サシムルコトヲ得ヘキ歟免モ角一大問題ナルヲ以テ掲ケテ以テ世ノ識者ニ質ス

### ●看守採用規則ノ發布ヲ望ム

佐原生

看守採用規則ハ各府縣皆之ヲ設定シ試験ノ上採用スル様子ナレト音ニ區々タルノミナラズ往々情弊ナキ能ハズ聞ク所ニ依レバ試験ハ或ル場合ニ於テハ儀式的ニ止マリ剩ヘ初メヨリ九圓若クハ十圓ノ高給ニ採用スル監獄アリト抑モ巡查看守ノ如キハ軍人同様秩序アル進級ヲ爲ササルベカラズ然ルニ巡查採用規則ハ一般ニ最初ハ下給俸ト定メラレタル様ニ覺ヘタリ果シテ然ラバ其筋ニ於テハ看守ニモ同様ノ規則ヲ定メ正確ナル試験ヲ行ヒ採用スルコトニセラレタシ若シ情弊ノ行ハルハアラバ有爲ノ人物ヲ得ル能ハズ益々巡查ニ劣ルベシ豈慨嘆ニ堪ユベケンヤ此ヲ以テ余輩ハ當局者ニ向テ速ニ看守採用規則ヲ發布セラレンコトヲ望ム

附言 卑見ニ依レバ看守採用規則ニハ左ノ事項ヲ掲グルヲ要ス

- 一 試験ヲ執行スルコトヲ前以テ告示スルコト
- 二 試験ノ科目ヲ豫メ定ムルコト
- 三 及第者ハ一旦見習ヲ命ジ月俸五圓ヲ給スルコト
- 四 見習中ハ教習所ニ入ラシメ其試験ニ及第シタルトキ始メテ看守ニ採用シ最下給俸ヲ給スルコト
- 五 辭職ノ者ハ滿一ケ年免職ノ者ハ滿二ケ年ヲ經ザレバ採用セザルコト
- 六 一ケ年以上勤績スルニアテザレバ昇給セシメザルコト

### 講讀餘話

漸ク増加スルヲ見ルニ至ル又文明ノ進步ハ個人的自由思想ノ熾盛ヲ喚發馴養シ終ニ國權ニ對シ、公益（公ケハ、秩序）ニ對スル犯罪、誹毀罪及身體毀傷罪ノ増加ヲ招來スルヲ免レス

之ヲ要スルニ文明進步ノ結果ハ益々犯罪ノ増加ヲ見ルニ至ルコト統計上、争フヘカラサルノ事實ナリ故ニ文明日進ノ今日ニ於テ漫ニ犯罪ノ減少センコトヲ期待スルハ恰カモ百年黃河ノ清ヲ俟ツモノト一般ナリト謂フヘキナリ然レトモ局ニ此ニ當ル所ノ者、其ノ難キヲ見テハ益々之レカ遏止撲滅ニ研鑽努力スル所ナクシテ可ナランヤ

（注）文明ノ進歩スルニ從ヒ社會一般ニ風俗ヲ尙ヒ秩序ヲ重シシ諧樂和平ヲ冀圖スルノ感情愈々緻密トナリ鞏固トナルヲ以テ細犯微罪、會テ一ノ不良の戲謔（風俗ニ對スル行爲ノ如キ）トシテ法律上、不問ニ付セシ所ノモノ又ハ身体、物品、名譽等ニ對スル諸種ノ行爲ノ如キ今日ニ於テスラ法律上ノ制裁アルニモ拘ハラス尙ホ下等社會ニ於テハ尋常一樣ノ平事トシテ更ラニ怪マサル所ノモノ甚シキハ近ク數年以前迄ハ反テ美事善行ナリトシテ道德上及法律上獎勵鼓舞セシ所ノモノ（例ヘハ復讐ノ如キ）今ハ即チ犯罪トシテ假借スル所ナク之ヲ責罰ス故ニ文明、進ムニ從ヒ強チ犯罪ノ行爲、増加ストノミハ斷言スヘカラス行

爲其物ハ敢テ増加シタルニハ非スシテ、只タ犯罪トシテ現ハルハ、ニ至リタルモノ、亦タ鮮カラサルヘシ是ヲ以テ彼ノ或ハ「犯罪ノ増加ハ社會道德ノ沈衰シタル徵証ナリ」、「文明進ムニ從テ道德ハ即チ退歩ス」ト謂フガ如キハ必スシモ一概ニ適實、動カスヘカラサルノ確言ナリトハ見ルヘカラサルナリ

文明ノ進歩ハ犯罪ノ性質ノ上ニ影響ヲ及ホスコト尠少ニアラス、未開ノ世ニ於ケル所ノ罪質ハ多クハ腕力の行爲(謀殺、故殺、放火、強盜、強姦、持兇器竊盜等)ニシテ即チ國權、未タ以テ社會ノ法紀ニ對スル各腕力の反行ヲ直チニ壓服スル所ノ十分ナル勢力ヲ有セサルノ証ナリ、文明進歩シ國權鞏固ナルニ從ヒ腕力の行爲ハ次第二ニ其跡ヲ歛メ之レニ代ハルニ虛偽隱謀漸次其ノ領域ヲ擴メ愈々出テ、益々巧ミナルニ至ル而シテ其ノ犯罪ノ重モナル種類ハ陰險ナル竊盜、詐譎、無告者、幼年者及被保護者ニ對スル奸淫、毆打、誹毀、公ケノ秩序ニ對スル犯罪等即チ是レナリ是ヲ以テ見レハ犯罪ハ世ノ進歩ニ伴フテ開化スル所アリ然レモ其數ハ即チ益々増加スルノ傾向アリト謂フヲ得ベシ

## 第二節 犯罪人

犯罪ハ人民共通ノモノナリ、換言スレバ犯罪人ヲ出ダスハ獨リ或ル種類ノ人民ニ限ラル、コトナク凡ベテハ社會ヨリ之ヲ產出ス即チ男女ヲ問ハズ老弱ヲ論セズ又職業、自分及宗派ノ何タルニ關セザルナリ但ダ其異同ニ從ヒ犯罪人ヲ出ダスコト彼レニ多クシテ此レニ少キノ差別アルハ固トヨリ之ヲ免レズ

(注)女ハ概シテ男ヨリモ犯罪人ヲ出ダスコト僅少ナリ是レ蓋シ風習、教育、性情、境遇其他生活上諸般ノ關係ノ然ラシムル所ナルベシ獨逸國ニ於テハ男十万人(受刑ノ責任アル能力者)ニ付千六百九十四人、女十万人ニ付三百六十一人ノ受刑者アルノ割合ニシテ刑事統計表ニ據レバ男百人ニ對シ女二十一人ニ該當セリ而シテ女ノ犯罪ノ最モ多キハ風俗ニ關スルノ罪ニシテ之レニ亞グハ隱私罪、竊盜罪、謀殺等ナリトス

年○齡○ハ○之○ヲ○四○期○ニ○分○ツ○即○チ○十○二○歳○乃○至○二○十○一○歳○ヲ○幼○年○時○代○ト○シ○二○十○一○歳○乃○至○四○十○歳○ヲ○中○年○時○代○ト○シ○四○十○歳○乃○至○六○十○歳○ヲ○成○年○時○代○ト○シ○六○十○歳○以○上○ヲ○老○年○時○代○ト○ス○而○シ○テ○其○犯○罪○ニ○對○ス○ル○ノ○關○係○ヲ○討○查○ス○ル○ニ○所○謂○多○ク○善○事○ヲ○ナ○ス○ノ○時○代○ハ○又○多○ク○惡○事○ヲ○爲○ス○ノ○能○力○ニ○富○ム○ノ○時○代○ニ○シ○テ○中○年○時○代○ニ○於○テ○最○モ○多○ク○ノ○犯○罪○人○ヲ○出○ス○ノ○事○實○ナ○ル○ヲ○見○ル○即○チ○獨○逸○ニ○於○テ○ハ○十○萬○人○ノ○同○齡○者○中○、○其○幼○年○時○代○ニ○在○ル○者○ハ○八○百○七○十○四○人○、○中○年○時○代○ニ○在○ル○者○ハ○千○四○百○四○十○七○人○、○成○年○時○代○ニ○在○ル○者○ハ○八○百○六○十○四○人○、○老○年○時○代○ニ○在○ル○者○ハ○二○百○七○十○八○人○ノ○受○刑○者○ヲ○出○ダ○ス○ノ○割○合○ニ○該○當○ス○尙○ホ○左○ニ○犯○罪○ト○年○齡○ノ○關○係○ヲ○バ○一○層○精○密○ナ○ル○計○數○ヲ○以○テ○之○ヲ○表○示○ス○(表ハ後講ニ讓ル)

但シ女ニアツテハ成年期ニ於テ犯罪人ヲ出ダスコト割合ニ多ク其數殆ンド中年期ニ讓ラス即チ中年期ニ於ケル犯罪人ノ數ヲ百人ト假定シ之レニ對スル他ノ期ニ於ケル男女犯罪人ノ數ハ左表ノ如シ(表ハ後講

ニ讓ル)

幼年者(十二歳以上十八歳以下)ノ犯罪ハ財産ニ對スルモノ最モ多ク風俗ニ對スルモノ之レニ亞ギ放火犯  
ハ即チ通例其第三位ニ在リ而シテ其犯罪ノ總數ハ成年犯罪者ノ百ニ對シ五十二ノ割合ニ該當ス  
獨身者、ハ家族ヲ有スル者ニ比スレハ割合ニ多ク犯罪ヲ爲スハ傾向ヲ有ス尤モ男女ニ依リ且其年齡ニ從ヒ

區々相同シカラザルノ現象ヲ示スコト左表ノ如シ(表ハ後講ニ讓ル)

之レニ據テ見レハ概シテ家族ナク又ハ家族生活ノ壞敗セルコトハ犯罪ヲ醸生スルノ原因タルコト知ルヘキ  
ナリ

職業ト犯罪ノ關係ニ就テ之ヲ見ルニ幾多ノ徒弟カ個々相分立シテ營爲スル所ノ職業ハ犯罪人ヲ出タスコ  
ト殊ニ多數ノ割合ヲ占ムルモノ、如シ左ニ計表ヲ掲ケテ之ヲ示ス(表ハ後講ニ讓ル)

居住地ノ貧富及肥瘠即チ社會上及物質上ノ事情ハ犯罪ニ對シ最モ密切ノ關係ヲ有スルモノナルコト論ヲ  
俟タズ故ニ是レ亦タ刑事統計上決シテ忽諸ニ付スベカラザルノ要點ナリト謂フベシ

宗派ノ異同ハ犯罪ニ對シ左マテ著ルシキ關係ヲ有セザルモノ、如シト雖(獨逸ニ於テハ)新教徒ハ舊教徒  
及猶太宗徒ニ比シ犯罪人ヲ出タヌコト稍々少數ノ割合ニ居ルモノ、如シ即チ獨逸ニ在テハ新教徒ハ人口  
百人ニ付六十二人七分、舊教徒ハ同ジク三十五人八分、猶太宗教ハ同ジク一人二分ニシテ其犯罪人ノ割

合ハ受刑者百人ニ付新教徒五十七人四分、舊教徒三十九人九分猶太宗徒一人ニ該當ス

犯罪人ヲ種々ノ階級ニ區別スルコトニ就テハ久シク世ノ識者ノ盡力スル所ナレトモ就中其ノ最モ簡單ナル  
モノハ偶發犯者(Gelegenhetsverbrecher)及慣習犯者(Gewohnheitsverbrecher)ノ二級ニ分ツニアリトス  
而シテ其ノ偶發犯者ト見做スベキ所ノ者ハ善良ナル性質ヲ稟有スルニモ拘ハラス腦力ノ薄弱ナル所謂無分  
別ノ儕輩ノ類即チ是レナリ彼ノ窮厄ニ迫ラレ進退維谷、終ニ竊盜ヲ爲スニ至リタルカ如キ者即チ之レニ屬  
ス其他情發の犯罪人即チ復讐又ハ一時ノ奮激ノ爲メ兇器ヲ弄シタル所ノ殺人犯者又ハ稟性、多淫ニシテ克  
制ニ難ク終ニ法紀ヲ侵犯スルニ至リタル風俗の犯罪人ノ如キモ亦此ノ部類ニ算入スヘキ者トス尙鄙見ニ依  
レハ殺兒犯罪ノ如キモ此部類ニ屬スルモノ多カルヘシト思惟ス即チ彼ノ忍フムカラサルヲ忍ンテ己レノ生  
兒ヲ拉殺スルカ如キ豈一片、廉耻心ノ存スルカ爲メニ非スト謂ハンヤ其心情ニ於テハ誠ニ憫諒スヘキモノ  
アリト謂フヘシ又慣習犯者トハ犯罪ヲ以テ幾ント一ノ職業カ若クハ一ノ事業ノ如ク思惟シ苟モ犯罪ニ由リ  
テ利益ヲ得ルノ機會アレハ一躍、忽チ之レニ乘シ犯罪即チ第二ノ天性トナリ所謂病、膏盲ニ入りテ治シ  
難キ所ノ種屬ヲ指シテ之ヲ稱ス之レニ屬スル所ノ者ハ慣習盜ヲ以テ其ノ最タルモノトシ強盜及強盜殺人犯  
者ノ多クモ亦タ之レニ屬ス其他此ノ種ノ犯罪者トシテ最モ着目スヘキ所ノ者ハ詐欺、隱私罪、贗造、猥褻  
媒介等ノ犯族ニシテ竊盜、隱私罪ノ如キハ殆ント下等社會ノ專有物ト稱スヘキモ贗造、詐欺、猥褻媒介等

ノ如キ犯罪ハ即チ之レニ反シ間々智識アル中流以上ノ社會ニ於テ之ヲ見ル

(注)偶發犯ハ一時ノ個人的又ハ社會的ノ位置境遇ヨリ發生スル所ノ者ニシテ危害ノ度最モ低ク或ハ寧ロ絶無ト謂フモ可ナリ慣習犯ハ即チ之レニ反シ恒久持續、曾テ個人的又ハ社會的ノ關係ニ拘ハルガ如キナク苟クモ其人、存スル以上ハ到ル所、犯罪亦タ之レニ影從シ危險ノ度、甚タ高シ而シテ一ハ幾ンド改良感化ヲ施スノ必要ナク一ハ之ヲ施スコト最モ必要ニシテ而カモ其ノ目的ヲ達スルコト頗フル難澁ナリ去レハ行刑苦心ノ地ハ實ニ此レニアツテ彼レニアラスト謂フヘキナリ

隱私罪トハ犯罪ニ依テ得タルコトヲ知り又ハ情狀ニ依リ之ヲ知ラザルベカラザル物件ヲ自己ノ利益ノ爲メ隱秘シ又ハ買得シ又ハ質取シ又ハ其他之ヲ領得シ又ハ之ヲ他人ニ販賣スルノ共力ヲナスノ所爲ヲ指シテ之ヲ稱ス

慣習犯者ハ通例、監獄ニ於テ緊嚴ニ自由ヲ剝奪セラル、モ之レガ爲メニ苦痛ヲ感スルコト左マデ甚シカラズ又彼ノ徒ハ能ク獄則ヲ遵奉シ教令ヲ格守シ且嚴正ナル紀律ニ服從シテ著シク作業ニ精勵スル所アリト雖其實、遷善悔悟ト云フガ如キコトハ幾ンド絶ヘテ其痕迹ダモ之レ無シト謂フモ可ナリ

(注)自由剝奪ノ苦痛ハ次回ハ初回ヨリ、三回ハ次回ヨリ、漸次輕減シテ之レヲ數回スル後ニ於テハ終ニ殆ンド全ク之ヲ感セザルモノ、如ク反テ監獄ヲ以テ安心立命ノ樂土トナスニ至ル故ニ慣習犯者ニ對スル刑ノ執行ニ就テハ最モ慎密ノ注意ヲ加フル所ナクンバアルベカラズ

刑ノ執行ニ就テハ最モ慎重ノ注意ヲ加フル所ナクシテハアルヘクニシ

緊要急廣生告

内務省監獄課員神谷彦太郎君譯

○英國ヴェントン獄事情 全壹冊 代價郵稅共 金二十八錢

本書ハ大英國ノ模範獄トシテ有名ナル「ヴェントン  
ヴェイル獄」ノ事情ヲ譯出セラレシモノニ係ル聞ク  
トコロニ依レハ目下巢鴨池袋ニ建築セララル、監獄  
モ專ラ此ベントンヴェイル獄ノ構造ヲ基礎トセラル  
ハト云ヘハ獄事家タル者ノ宜ク一讀シ給フヘキ良  
書ナリ

大日本監獄協會佐野尙君譯

○歐米監獄事情 第十冊既刊 壹冊代金四十九錢乃至金二十五錢

本書ハ廣ク歐米監獄ノ事情ヲ得意ノ精筆ヲ以テ翻  
譯セラレシモノナレハ獄事家ノ座右ニ欠クヘカラ  
サル参考書ナリ

佐野尙君譯

○佛國監獄改良論 上卷 代價郵稅共 金二十八錢

本書ハ佛蘭西監獄改良ニ依テ來リシ所ヨリ其今日  
ヲ致シタル顛末ヲ論述シタル原書ノ意義ヲ秋毫モ  
誤ラス最モ詳細ニ譯出セラレシモノナリ

宇川盛三郎君譯述

○監獄論 全壹冊特別割引代價郵稅共金十四錢

長野縣書記官小野田正恩先生著

○泰西監獄問答錄 全壹冊 代價郵稅共 金七十五錢

佐野尙君譯

○佛國監獄改良論 下卷 代價郵稅共 全壹冊 金二十八錢

神谷彦太郎君譯

○華氏監獄論 全壹冊 代價金四十錢

佐野尙君譯

○萬國議事提要 全壹冊 代價金六十錢

神谷彦太郎君譯述

○英國獄事問答 全壹冊 代價金五十錢

右監獄論以下六書ハ賣切ニテ目下絶版ニ候得共何  
レモ獄事家ニ欠ヘカラサル最緊要書ナレハ本院ハ  
豫約ノ便法ヲ設ケ申込五百名ニ滿ツレハ直ニ出版  
各其代價ヲ以テ速ニ送本可任候間續々御申込被下  
度候

明治廿六年一月

東京牛込神樂町 二丁目廿二番地 臨池書院

# 監獄教誨

定價金六錢

右第一編より第八編まで出版尙ほ八編共完備致し居り候に付此際御入用の方は御申込み下され度候  
又第九編は来る四月十五日出版仕候見本御入川の方は郵便切手六錢封入御申込次第贈呈す  
●監獄教誨は都合に依り来る五月の出版即ち第十編を以て終刊とす  
東京市京橋區築地三丁目八十九番地

## 大日本監獄教誨師通信所

北海道樺戸月形村

### 同情會發行

毎月一回發行  
一部定價金四錢  
郵税金貳錢

# 教誨叢書

### 第十三輯目錄

- 教誨 志を立てよ
- 宗 道義地論
- 宗 宗教真論(第六回)
- 宗 使徒約翰(第十一回)
- 宗 貨幣論(第十一回)
- 宗 第二忍前(第三回)
- 宗 神も敬て足ることを知るは大なる利なり
- 宗 上にも上あり
- 宗 悔改者の眞相
- 宗 我を寫す明鏡
- 宗 格言教則(いろは)
- 宗 年賀の文。用文類語のものゝきなへ
- 宗 審月堂主人
- 宗 松尾晋次郎
- 宗 松尾晋次郎
- 宗 長尾晋次郎
- 宗 小野田卓爾
- 宗 望峯 生
- 宗 江 生
- 宗 天 生
- 宗 天 生
- 宗 天 生
- 宗 天 生

### 第十四輯目錄

- 教誨 火さ成情
- 宗 親子の情
- 宗 心の貯蓄
- 宗 設教 基督の二の信條
- 宗 第五身心の關係。第六百年の利益
- 宗 病院の蒲團
- 宗 山家(小林清親)
- 宗 清方もいろ
- 宗 姉の手紙
- 宗 めくちみ
- 宗 豊のふさ
- 宗 第一編編 第二恩賜に漏るゝ人
- 宗 格言 いろは 蔵言
- 宗 妻の身分につき答ふる文。用文。教誨
- 宗 阿部政桓
- 宗 大塚右金次
- 宗 原井時雄
- 宗 横井時雄
- 宗 天福堂主人
- 宗 草の会主人
- 宗 草の会主人
- 宗 草の会主人
- 宗 草の会主人

明治廿六年二月二十八日印刷  
同年三月三十一日出版

發行人 東京市四谷區荒木町廿七番地 磯村父貞  
印刷人 同市同區同町同番地 近藤二郎